

リアホサ

**ラテンアメリカの
開拓者, 16ページ**

人生の中で一つの道を選ぶ, 42ページ

すべてを変えた聖句, 50ページ

雄牛と神殿, 68ページ



「シオンの望み」 ミロ斯拉バ・メンセン・ベザコバ画

多くの末日聖徒は19世紀半ばにソルトレーク盆地を目指して西へ旅をしました。それより何年も前、1831年8月1日に、預言者ジョセフ・スミスはミズーリの聖徒たちに話し、ミズーリにおける彼らの将来の生活と、西部への旅について希望を与えました。

預言者への啓示の中で、主はこう言われました。

「多くの艱難かんなんの後に祝福は来る。それゆえ、あなたがたが大いなる栄光を冠として与えられる日が来る。その時はまだ来ていないが、

もう近い。

わたしが前もってあなたがたに告げるこのことを覚えておきなさい。そうすれば、あなたがたはそれを心に留めて、来るべきものを受けることができる。」(教義と聖約 58:4-5)

この絵の中に、ずっと忠実だった人々の姿を見ることができます。彼らは、シオンを築くために前進したすべての聖徒を表しています。

メッセージ

- 4 大管長会メッセージ——
やると決めたらやるんだ
ディーター・F・ワークトドルフ管長
- 7 家庭訪問メッセージ——
神殿に行って祝福を受ける

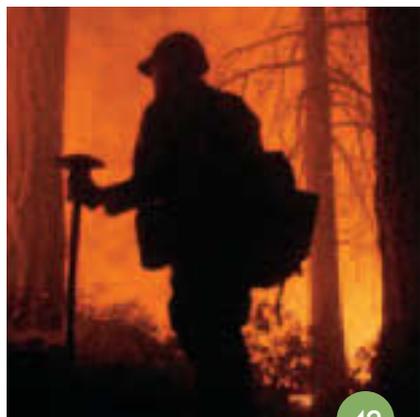
特集

- 16 ミ・ビダ, ミ・イストリア
ラテンアメリカの10人の末日聖徒の信仰と改宗にまつわる話
- 22 召しに応じる信仰
ジェフリー・R・ホランド長老
開拓者はある確信に促されて荒れ果てた地域に定住しました。彼らのその確信は、自分の最も良いものを神の業のためにささげるように、わたしたちを鼓舞します。
- 29 「わたしがあなたがたを愛したように」
バーバラ・トンプソン
二つの特質が、わたしたちをキリストの弟子として際立たせます。
- 32 信仰の島 —— 勤勉の物語
アダム・C・オルソン
コイラ家族の浮き島は、彼らが家族のために霊的に築こうとしているものを、目に見える形で表しています。
- 36 水を恐れない
アダム・C・オルソン
ジョセフはバプテスマで水に沈むことを恐がっていましたが、その恐れを乗り越えられるように家族が助けられました。

シリーズ

- 8 小さな、簡単なこと
- 10 キリストについて語る ——
生ける水を満ちるまで飲む
マシュー・ヒープス
- 12 わたしたちが信じていること——
労働は永遠の原則である
- 14 教会での奉仕 —— 神に召され
ラモナ・ダットン
- 15 わたしたちの家庭、
わたしたちの家族 ——
愛ある母の使命
ペイホラニ・カウバカ
- 38 末日聖徒の声
- 75 教会のニュース
- 79 家庭の夕べのためのアイデア
- 80 また会う日まで ——
今年はずいぶん
雑草にすぎないから ——
抜いてしまいなさい
モント・ポールセン

表紙
表紙 —— 写真/マーク・J・デイス
裏表紙 —— 写真/ケント・マイルズ



42

42 わたしたちに対する指導者の言葉
—— 行動を開始する

ボン・G・キーチ長老

山の消防隊員の物語から、生活の中で靈感を受ける方法を学ぶことができます。



こんげつごう なか
今月号の中に
かく
隠れているリアホナを
さが
捜しましょう。
ヒント——
ほろぼしや
幌馬車

58

46 そここが知りたい

48 ポスター——うわさ話

49 わたしたちのスペース

50 わたしはこのようにして
知りました——
答えは 8 節にありました
アンジェリカ・ネルソン

52 開拓者の栄えある受け継ぎ

トーマス・S・モンソン大管長

わたしたちは初期の開拓者から
多くのことを学べます。

54 助け合うインドの人々

チャールズ・キューイッシュ長老、

キャロル・キューイッシュ姉妹

青少年とヤングアダルトが、イン
ド南部の洪水被害者を救済する
ために協力しました。

56 伝道地から——

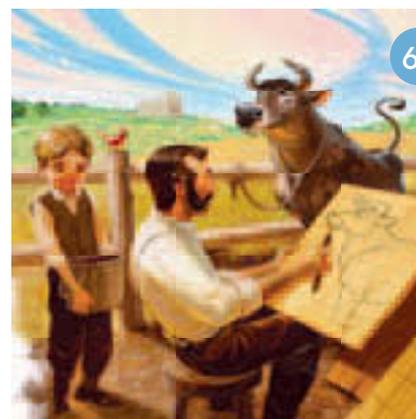
ある人にとってはごみ、

だれかにとっては宝物

アンドレジ・ボツェノフ

58 とにかく泳ぎ続ける

ニュージーランドの優秀なジュニア
水泳選手は、父親の突然の死にど
のように対処したでしょうか。



68

61 とくべつな しょうにん——

ほかの 人の ために

ほうしすることは

なぜ 大切なのでしょうか

ダリン・H・オークス長老

62 救助の手を差しのべる

ヘンリー・B・アイリング管長

愛に満ちた天のお父様は、わた
したちがみもとに帰れるように救
助者を置いておられます。

64 しょうきょうかいを かていでも

——しんでは かみの みやです

ジョアン・チャイルド、

クリスティーナ・フランコ

66 タヒチの

かいたくしゃ きねん日

マリア・T・ムーディー

タヒチの子どもたちは かいたく
しゃ きねん日を どのように
おいわいしているのでしょうか。

67 わたしたちのページ

68 め し

コリーン・ピュー

アイザックと、トラスと、ノー
ブー神殿

70 ちいさな おともだちへ



リアホナ 2011年7月号

第13巻7号 (09687 300)

末日聖徒イエス・キリスト教会公式国際機関誌(日本語版)

大管長会: トーマス・S・モンソン, ヘンリー・B・アイリング, ディーター・F・ウークトドルフ

十二使徒定員会: ボイド・K・バックナー, L・トム・ペリー, ラッセル・M・ネルソン, ダリン・H・オークス, M・ラッセル・バラード, リチャード・G・スコット, ロバート・D・ヘイルズ, ジェフリー・R・ホランド, デビッド・A・ベドナー, クエンティン・L・クック, D・トッド・クリストファーソン, ニール・L・アンダーセン

編集長: ボール・B・バイパー

顧問: スタンレー・G・エリス, クリストフェル・ゴールデン・ジュニア, 菊地良彦

実務運営ディレクター: デビッド・L・フリッシュニク

編集ディレクター: ピンセント・A・ボーン

グラフィックディレクター: アラン・R・ロイボーク

編集主幹: R・バル・ジョンソン

編集主幹補佐: ジェニファー・L・グリーンウッド, アダム・C・オルソン

共同編集者: スーザン・パレット, ライアン・カー

編集スタッフ: フリタニー・ピーティエ, デビッド・A・エドワーズ, マシュー・D・フリット, ラリー・ポーター, ガント, ラリー・ヒラー, キャリー・カステン, ジェニファー・マディー, メリッサ・メリル, マイケル・R・モリス, サリー・J・オデカー, ジョシュア・J・パーキー, チャド・E・ファレス, ジェン・ピンボロー, ジャネット・トーマス, ボール・バンデンバーク, メリッサ・ゼンテノ

実務運営アートディレクター: J・スコット・クヌーセン

アートディレクター: スコット・バン・カンペン

制作主幹: ジェーン・アン・ピーターズ

主任デザイナー: C・キンボール・ボット, トーマス・S・チャイルド, コリン・ピンクレイ, エリック・P・ジョンソン, スコット・M・ムーイ

制作スタッフ: コレット・ネッカー, オース・ハワード・G・ブラウン, ジュリー・バーデット, レジナルド・J・クリステンセン, キム・フェンスタマー・カー, キャスリーン・ハワード, デニス・カービー, ギニー・J・ニルソン
製版: ジェフ・L・マーティン

印刷ディレクター: クレグ・K・セドウィック

配送ディレクター: エバン・ラーセン

日本語版翻訳課長: ヘンリー・W・サブストローム

●定期購読は、「リアホナ」注文用紙でお申し込みになるか、郵便振替(口座名: 末日聖徒イエス・キリスト教会 振込口座番号: 00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●「リアホナ」のお申し込み・配送についてのお問い合わせ……〒133-0057 東京都江戸川区西小岩 5-8-6 / 末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター 電話: 03-5668-3391

発行所: 末日聖徒イエス・キリスト教会
〒106-0047 東京都港区南麻布 5-10-30
電話 03-3440-2351

定価: 年間予約/海外予約 1,000円(送料共)
普通号/大会号 150円

「リアホナ」へのご投稿およびご質問は下記の連絡先にお送りください。

Rm. 2420, 50 E. North Temple St.,
Salt Lake City, UT 84150-0024, USA
電子メール: liahona@ldschurch.org

「リアホナ」(モルモン書に出てくる言葉。「羅針盤」または「指示器」の意)は、以下の言語で出版されています。

アルバニア語, アルメニア語, ビスラマ語, ブルガリア語, カンボジア語, セブアノ語, 中国語, クロアチア語, チェコ語, デンマーク語, オランダ語, 英語, エストニア語, フィジー語, フィンランド語, フランス語, ドイツ語, ギリシャ語, ハンガリー語, アイスランド語, インドネシア語, イタリア語, 日本語, キリバス語, 韓国語, ラトビア語, リトアニア語, マダガスカル語, マーシャル語, モンゴル語, ノルウェー語, ポーランド語, ポルトガル語, ルーマニア語, ロシア語, サモア語, スロベニア語, スペイン語, スウェーデン語, タガログ語, タヒチ語, タイ語, トンガ語, ウクライナ語, ウルドゥー語, ベトナム語(発行頻度は言語により異なります。)

©2011 Intellectual Reserve, Inc. 著作権所有。印刷: 日本

「リアホナ」に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭において一時的に、また非営利目的に使用される場合は複写することができます。視覚資料に関しては、作品の著作権表示に制限が記されている場合に複写できないことがあります。著作権に関するご質問は、Intellectual Property Office, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150, USAに郵送するか、電子メール——cor-intellectualproperty@ldschurch.orgにご連絡ください。

For Readers in the United States and Canada:

July 2011 Vol. 35 No. 7. LIAHONA (USPS 311-480) English (ISSN 1080-9554) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150. USA subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$12.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone. (Canada Post Information: Publication Agreement #40017431)

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, P.O. Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.

インターネットで得られる追加情報

Liahona.lds.org [英語]

成人



コイラ家族はチチカカ湖の浮き島に住んでいます。島は葦あしでできています。この島を維持することを通して勤勉について学ぶことができます(32ページ参照)。www.liahona.lds.orgでさらに写真を見ることができます。

青少年



12歳のモニカ・サイリはニュージーランドの優秀なジュニア水泳選手です。父親が突然亡くなったとき、彼女は「難しいことをすると人は強くなります。[だから]とにかく泳ぎ続けなければならない」ということを学びました(58ページ)。www.liahona.lds.orgでさらに写真を見ることができます。

こども



www.liahona.lds.orgに、こどものためのかつどうががあります。

あなたの言語で

www.languages.lds.orgで、「リアホナ」や教会のその他の資料を多くの言語で入手できます。

今月号に採り上げられているテーマ

数字は記事の最初のページを表します。

愛, 29

証あかし, 16, 38, 50

イエス・キリスト, 10, 29

うわさ話, 48

改宗・改心, 16, 40

開拓者, 22, 40, 52, 66

家族, 15, 32, 39, 58, 67,

70

教会歴史, 9

決意, 4, 22, 50, 58

従順,

神殿, 8, 64, 67, 70

聖文研究, 50

聖霊, 42, 47

断食, 9

伝道活動, 56

母親の務め, 15

バプテスマ, 36, 46

深い憐れみあわれみ, 41

扶助協会,

メディア, 47

モルモン書, 38, 49, 56

靈感, 42

労働, 12, 32

大管長会第二顧問
 ディーター・F・
 ウークトドルフ管長



やると決めたら やるんだ

一 人の若い兄弟が、真っ青に澄み切った湖を見下ろす小さな崖がけの上に立っていました。そこは飛び込みを楽しめる人気の場所で、人々が飛び込むのを見てきたこの兄弟たちは、自分たちもやってみようと度々話していました。

二人とも飛び込みたいものの、先に行きたくはありません。それほど高い崖ではありませんでしたが、二人の少年にとっては体を前に倒し始める度に高さが増していくように思われて、すぐに勇気がなえてしまうのです。

ついに、一人が片足を崖の縁に置き、意を決して前に出ました。その瞬間にもう一人がささやくように言いました。「来年の夏まで待とうか。」

しかし、動き出した方の少年はもう勢いがついて体が前に出ていきます。少年は答えました。「やると決めたらやるんだ!」

少年はしぶきを上げて湖に飛び込むと、すぐに水面に浮かび上がり、勝ち誇って叫びました。もう一人の少年もすぐに後を追いました。後で、二人は先に飛び込んだ少年が最後に言った言葉のことを笑いました。「やると決めたらやるんだ。」

決意をもって献身することは、水に飛び込むことに少し似ています。真剣に取り組んでいるか、取り組んでいないかのどちらかです。前に進んでいるか、じっと立っているかのどちらかです。その中間はありません。わたしたちは皆、残りの人生を変える決断の瞬間に直面します。教会員として、わたしたちは次のように自問しなければなりません。「飛び込もうか、それとも縁に立ってしようか。踏み出そうか、それともつま先で水温を確認するだけにしようか。」

間違った行いをする事で犯す罪もあれば、何もしない事で犯す罪もあります。福音に対してある程度しか献身

していないと、満たされない気持ちや不幸せな気持ち、あるいは罪悪感を招くことがあります。わたしたちは聖約の民ですから、そうであってはけません。わたしたちはバプテスマを受けるときや主の宮に入るときに、主と聖約を交わします。男性は神権に聖任されるときに主と聖約を交わします。主と交わした約束を守ることに以上大切なことはないはずで、旧約聖書に記されている、ラケルとレアがヤコブに答えて言った言葉を覚えておきましょう。その簡潔で率直な言葉には、彼女たちの決意が表れていました。「何事でも神があなたにお告げになった事をしてください。」(創世 31:16)

ある程度だけ献身する人は、証あかし、喜び、平安という祝福をある程度だけ受けるでしょう。そのような人に対して、天の窓はある程度だけ開かれるでしょう。「今は50パーセントだけ献身しておいて、再臨が来てキリストが御自身を現されたときには100パーセント献身しよう」と考えるのは、愚かなことではないでしょうか。

主と交わした聖約に対する献身は、改心がもたらす実です。救い主とその教会に対して献身することで、人格が築かれ、霊が強められていきます。そしてキリストにお会いするとき、主はわたしたちを抱き締めて、「良い忠実な僕よ、よくやった」と言ってくれるでしょう(マタイ 25:21)。

行う意志があることと実際に行うことは異なります。献身する意志があるだけの人は、絶えず言い訳を見つけるでしょう。心から献身する人は、問題を直視し、心の中で次のように言います。「確かにそれは先に延ばすとても良い理由だが、わたしは聖約を交わしたのだから、自分が行うと決意していることを行おう。」そのような人は、聖文を調べ、天の御父の導きを熱心に求めます。教会の召しを受け、尊んで大いなるものとします。集会に出席します。ホーム



ティーチングや家庭訪問を行います。

ドイツの格言に次のようなものがあります。「約束は満月のようなものだ。すぐに果たさなければ、日に日に欠けていく。」末日聖徒イエス・キリスト教会の会員として、わたしたちは弟子としての道を歩むと決意しています。救い主の模範に倣うと決意しています。主の教会のすべての会員が心の底から改心し、神の王国を築くことに献身して、自分に秘められた可能性を十分に発揮するとき、世界がどれほど祝福を受けて、良くなるかを想像してみてください。

何らかの形で、わたしたちはそれぞれ水面を見下ろしながら、決断を下すべき場所に立っています。わたしたちが信仰を持ち、前に進み、恐れと疑いに勇気をもって立ち向かい、心の中で「やると決めたらやるんだ!」と言うように祈ります。■

このメッセージから教える

「生徒が福音の原則を理解するのに役立つ方法の一つは、絵を描かせることである。絵を描くことで、生徒は探求したり、福音の話や話題にされている原則について自分の理解していることや思うことを表現できるのである。」(『教師、その大いなる召し』166) 記事を読みながら、福音に対する献身という原則について話し合った後、希望する人に、福音に対する献身を示す行いの絵を描いてもらうとよいでしょう。幼い子供たちには、何を描くか提案してあげる必要があるかもしれません。

青少年

わたしにささげられるもの

アリッサ・ハンセン

わたしはクラスやワークショップ、夏のキャンプなど、夏の間にしたことの資金をどう用意すればよいのか悩んでいました。泣きたくなるような気持ちでした。そんなとき、主を信頼して信じることについて、それまでに教わってきたあらゆる事柄を思い出しました。状況を主の手にゆだねて、もし御心であれば道を備えてくださるだろうと、主を信頼することにしました。

それから程なくして、母がまだ現金に換えていない小切手を見つけました。その年の初めにわたしがしていた仕事

の給料でした。その翌日には、あるコンテストで2位になって少額の賞金が郵送されてきました。このことは、神が確かに生きておられて、わたしを愛し、気にかけてくださっていて、必要なものを与えてくださるといふ大きな証となりました。

わたしは天の御父と救い主への感謝と愛の気持ちでいっぱいになりました。胸が破裂してしまうのではないかと思うほどでした。自分がどれほど感謝しているかを示したい、神に精いっぱい、賛美をささげたい、そしてその気持ちを

分かち合いたいと心から望みました。そのために歌を作ったり、詩を書いたり、絵を描いたりしている人もいますが、自分にはそのような能力はないと感じました。そして、神を十分に賛美するためにわたしにささげられる唯一のものは、自分の人生であることに気づきました。つまり、「信者の模範」になること（1テモテ4：12）、キリストに人生をささげることで、それこそ主が求めておられることであって、わたしにささげられるものなのです。

こども

あなたは けつい していますか

イエス・キリストに したがうと やくそくした わたしたちは、言いわけをしないで 正しい ことを 行います。

この 4人の 子どもたちは、しょうきょうかいのクラスの みんなと きんじょの公園を そうじしに 来ています。ほうしを しょうと けつい していないように 見えるのは どの子 ですか。なぜ ですか。ほかの 子どもたちは けついを どのように しめしている でしょうか。

この 子が ほかの 子どもたちと 一緒に ほうし できるように、ほうしかつどうで やく立つらつの どうぐに 丸を つけましょう。くま手、はけ、はしご、バケツ、シャベルを 見つけられますか。





信仰・家族・扶助

神殿に行って 祝福を受ける

この資料を学び、
必要に応じて訪問先の姉妹と話し合ってください。
質問を使うことによって、訪問先の姉妹を強め、
あなた自身の生活の中で扶助協会を生かすようにしてください。

姉妹の皆さん、わたしたちはこの上ない祝福を受けています。救い主がこの教会の頭であられて、わたしたちは生ける預言者によって導かれています。また、わたしたちは聖文を授かっています。そして世界中に聖なる神殿があつて、天の御父のもとに帰るために必要な儀式を受けることができます。

わたしたちはまず自分自身のために神殿に行きます。十二使徒定員会のロバート・D・ヘイルズ長老は次のように説明しています。「神殿の第1の目的は日の栄えの王国における昇栄に必要な儀式を行うことです。神殿の儀式はわたしたちを救い主へと導いてくれ、イエス・キリストの贖罪を通してもたらされる祝福を与えてくれます。神殿は人に知られている中で最も偉大な学び舎です。そこでは天地創造についての知識と知恵が授けられます。エンダウメントで与えられる指示は、現世での生活をどのように送るべきかについて指針を与えてくれます。……エンダウメントの儀式は、どのように生きるべきかについて、また、救い主に従うことによって義にかなった生活をするために交わす聖約についての一連の指示から成っています。」¹

しかし、神殿での務めはそれで終わりではありません。十二使徒定員会会長であるボイド・K・パッカー会長は次のように教えています。「幕のかなたへ行ってしまった人々のために、代理人として働きましょう。そうするときに皆さんは、自分自身がかつて交わした聖約の内容を再び確認するでしょう。そして、主の宮に満ちるすばらしい霊的な祝福を、さらに強く感じるでしょう。……もろもろの聖約と儀式の中に、皆さんが聖なる神殿で受けることのできる祝福があります。」²

神殿に度々参入してください。神殿の聖約を交わし、守るとき、わたしたちはあらゆる祝福の中で最も大なるものである永遠の命に至る道にとどまることでしょう。

中央扶助協会会長会第二顧問 バーバラ・トンブソン

聖文から——

イザヤ 2:3; 1 コリント 11:11; 黙示 7:13 - 15;
教義と聖約 109 章

何ができる でしょうか？

1. 訪問先の姉妹が「神殿に行〔く〕」決意を強められるように、どのような経験を紹介したらよいでしょうか。

2. 自分自身が神殿の祝福を受けるにはどうしたらよいでしょうか。

詳しくは
www.reliefsociety.org
lds.org [英語]を
ご覧ください。

わたしたちの歴史から

預言者ジョセフは、しばしば扶助協会の集会で姉妹たちに語りました。ノーブー神殿が建設中であった当時、預言者は姉妹たちに教義を教えて、姉妹たちが神殿の儀式を通してより多くの知識を得られるように備えました。1842年、ジョセフはマーシー・フィールディング・トンブソンに次のように述べています。「〔エンダウメント〕はあなたを暗闇から出して、驚くべき光の中に導くでしょう。」³

ノーブーを脱出する前に、およそ 6,000 人の末日聖徒が神殿の儀式を受けました。プリガム・ヤング大管長（1801 - 1877 年）は次のように述べています。「聖徒たちが心待ちにしていたのは〔神殿の〕儀式を受けることであり、わたしたちの方ではぜひとも儀式を授けたいと思っていた。そこでわたしは昼夜神殿の中で主の業に自らをささげ、1日平均4時間以上の睡眠は取らず、帰宅するのは週に1度であった。」⁴ 自分たちの町と神殿を離れて未知の世界へ旅立つに当たって、聖徒たちは神殿の聖約を通じてもたらされる強さと力で身を固めたのです。

注

1. ロバート・D・ヘイルズ「神殿の祝福」『リアホナ』2009年10月号、14
2. ボイド・K・パッカー、*The Holy Temple* (1980年)、170、171
3. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』414
4. 『歴代大管長の教え——プリガム・ヤング』10



断食日記

以前、わたしにとって断食は難しいことでした。少なくとも、断食日記をつけ始めるまではそうでした。今では断食を始める前に、何のために断食をするのか具体的な目的を書き出しています。例えば、「ビーハイブのアドバイザーとしての新しい召しについてとても緊張しているので、わたしは明日の最初のレッスンを冷静に、自信をもって、落ち着いて教えられるように断食し、祈ります」と書きます。

断食している間は、頭の中や心に浮かぶ思い、気持ち、印象、また自分の断食の目的に特に関連する参照聖句などを書き留めます。

わたしの望みを天の御父に打ち明けることで、主はしばしばわたしが思いもよらなかった方法で祝福してください。わたしの人生において、まったくの偶然に起こる出来事であるかのように思えることでも、書き留めることによって、すべての事柄が自分の成長と進歩にいかにか寄与しているかがはっきりと分かります。わたしが初めて断食日記をつけ始めた1996年以來、わたしは天の御父がどれほどわたしの人生を祝福してくださっているかを目の当たりにしてきました。断食と祈りの驚くべき霊的な力を証します。また断食を「喜びと祈り」の機会と考えています(教義と聖約59:14)。

レネー・ハーディング
(アメリカ合衆国、ノース・カロライナ州)

メアリー・フィールディング・スミス

メアリー・フィールディング・スミスは忠実な末日聖徒の女性で、1838年から1839年にかけての冬の間、夫がリバティー牢獄に入れられているとき、7人の幼い子供たちとともに家に残されていました。暴徒に家を襲撃されたときには、暴行を受けた息子が殺されそうになりました。ハイラム・スミスの妻であったメアリーは、1844年6月27日にカーセージの牢獄で夫が暗殺され未亡人となりました。メアリーとエマ・スミスは、それぞれの夫であるハイラムとジョセフ・スミスに寄り添い、数多くの艱難を堪え忍びました。今日、メアリーは初期の教会の最も信仰の篤い開拓者の一人として賞賛されています。

メアリーは1837年12月24日にハイラムと結婚しました。ハイラムの最初の妻、ジェルシャはお産の最中に命を落としました。メアリーはハイラムの幼い子供たちを自分の子供のように世話をしました。ハイラムとメアリーとの間には、後に教会の第6代目の大管長となったジョセフ・F・スミスを含む二人の子供が生まれました。

ジョセフとハイラムの殉教後、聖徒たちがソルトレーク渓谷に向けてノーブーを旅立つとき、メアリーはその一行に加わることを決意しました。メアリーとその家族は一つの開拓者部隊に加わるよう割り当てられましたが、部隊長は彼女がほかの人の足を引っ張るだろうから過酷な旅はあきらめるようにと言いました。メアリーはそれに答えて言いました。「わたしの方があなたより先に盆地にたどり着きますよ。それにあなたに助けを求めたりしません。」¹ 旅は確かに困難を極めました。メアリーとその家族は1848年9月23日、彼女を疑った隊長より1日早くソルトレークに到着しました。

メアリー・フィールディング・スミスは生涯忠実な聖徒でした。彼女は貧困の中にあっても、² 什分の一を納めました。ある人が、彼女がその年に収穫したジャガイモの什分の一をささげ



最上——
平原を渡る
メアリー・
フィールディング・
スミス。
上——
ソルトレーク・
シティーにある
メアリー・
フィールディング・
スミスの自宅にて
家族とともにいる
ジョセフ・F・スミス。
1910年ごろ。

る必要はないのではないかと軽はずみに言ったとき、彼女は次のように答えました。「とんでもないことです。あなたはわたしから祝福を取り上げようとなさるのですか。什分の一を納めなければ、主はわたしに祝福を下さらないでしょう。わたしが什分の一を納めるのは、それが神の律法だからというだけではありません。そうすることによって祝福が得られるからです。」² メアリーはソルトレーク盆地に農場を作り、子供たちに福音を教えました。ジョセフ・F・スミス大管長は後にこのように語っています。「母はわたしに神の王国に対する畏敬、徳、真理、そして高潔さを教えてくれました。母は言葉による教えによってだけでなく、模範を通して教えてくれたのです。」³

注

1. ドン・セシル・コルベット, *Mary Fielding Smith: Daughter of Britain* (1966年), 228 参照
2. メアリー・フィールディング・スミスの言葉, ジョセフ・F・スミスによる引用, *Conference Report*, 1900年4月, 48 参照
3. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・F・スミス』(1998年), 36

生ける水を 満ちるまで飲む

「わたしが与える水を飲む者は、
いつまでも、かわくことがない……。」(ヨハネ 4:14)

福祉部
マシュー・ヒーブス

仕 事の関係で世界中の様々な地域に出かけます。そのような地域では浄水を手に入れない人々もいます。わたしたちの団体は地元
の自治体や住民と協力して、井戸や湧き水、あるいは雨水槽などのような、継続して利用できる、生命維持に欠かせない、浄水の供給源を提供しています。

こういった水源確保の事業は生活の質を著しく改善します。浄水によって腸チフス、コレラ、そのほか水を媒介とする病気にかかるのを防ぐことができますので、健康が大きく改善されます。これまで親や子供たちが水を運搬するために費やしていた時間を仕事や教育に充てることができるので、経済も改善します。非常に多くの広範囲に及ぶ問題を抱える地域においてさえ、いちばん欲しいものは浄水であると人々は必ず言います。

救い主が御自分の業を行われたのは、人々が水を得るために井戸を頼りにしていた時代と場所でした。救い主が井戸で女に「わたしが与える水を飲む者は、いつまでも、かわくことがない」(ヨハネ 4:14) と言って教えられたとき、救い主は福音がわたしたちに最も基本的な必要を——永遠に——満たすと教えておら

れたのでしょうか。わたしはそうだと思います。

わたしはアフリカのケニアに住む一人の女性に対して、いつまでも感謝するでしょう。この女性は水を確保するために惜しみなく働くことを教えてくれました。彼女とは、彼女の住む地域で井戸が設置された後に行われた祝賀会で出会いました。この新しい井戸のおかげで、これまで毎日 14 キロ歩いて水をくんでいたのが、1.6 キロに短縮されると、彼女は感謝しながら話してくれました。これから自分のものになる様々な機会に対して、彼女は大喜びしていました。

もし自分が水を得るために 1.6 キロも歩かなければならなかったとしたら、どう感じるだろうかと考えずにはられませんでした。彼女が家事から庭仕事に至るまで、すべてのことをわきに置いて水をくみに行くということに感銘を受けました。水なしにほかの仕事を済ませることはできないことを知っていたのです。彼女の労苦がどれほど重いものであったかについて考えました。水を運ぶには力と持久力が要ります。それでも、彼女は家族のために喜んで水をくみに毎日 14 キロ歩いていたのです。



主は生ける水です

「〔ヨハネによる福音書第 4 章 14 節で語られている〕この生ける水を飲み、心の内で永遠の命に至る泉がわき上がるのを経験したいと思いませんか。」

そう望むなら、恐れることはありません。心から信じてください。神の御子に対する揺るぎない信仰を育て、熱心に祈り求めてください。いつでも主について考えてください。弱さを捨ててください。聖さと調和をもって、戒めに従って生きてください。

イエス・キリストの福音という生ける水を満ちるまで飲んでください。」

十二使徒定員会
ジョセフ・B・ワースリン長老
(1917-2008 年)
「豊かな人生」
「リアホナ」2006 年 5 月号, 100



救い主は次のように教えられました。「わたしが与える水を飲む者は、いつまでも、かわくことがないばかりか、わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠の命に至る水が、わきあがるであらう。」(ヨハネ 4:14)

自宅の蛇口から浄水が得られるわたしたちは、時々、コップ1杯の水をくむのに蛇口をひねるのと同じくらい簡単にキリストのもとに来られるものだと思っていないでしょうか。あるいは、わたしたちはイエス・キリストと御父を知ることが求め、大切な仕事でさえもいとわずにわきに置くでしょうか。

救い主がわたしたちに下さる生ける水

の井戸は、決して乾くことなく、清く、生命を養ってくれます。空のコップを持って救い主のもとに来るとき、主はそれを満たしてください。しかも、わたしたちが受け取れる量を超えて、満ちあふれるほど注いでくださることがよくあります。主こそが真の生ける水であり、神の愛の表れなのです。■

生ける水とは何でしょうか

- 生ける水とはイエス・キリストの福音です。
- 「生ける水の源〔は〕神の愛の表れである。」(1ニーファイ 11:25)
- 生ける水はわたしたちに「永遠の命」をもたらします(ヨハネ 4:14; 教義と聖約 63:23)。

このテーマに関する詳細は、1ニーファイ8章、11章、およびリチャード・G・スコット「本質を変える信仰の力と人格」『リアホナ』2010年11月号、43を参照してください。

生ける水はどのようにわたしたちを祝福するのでしょうか

前中央扶助協会会長会第一顧問のキャサリン・H・ヒューズは、総大会の話「『生ける水』による祝福」(『リアホナ』2003年5月号、13)の中でこの質問に答えています。

1. 生ける水は聖霊の力を通して、わたしたちを癒^{いや}してくれます。
2. 生ける水はわたしたちを養い、支えてくれます(マタイ 11:28 参照)。
3. 生ける水は平安と喜びをもたらします(ヨハネ 14:27; 教義と聖約 101:16 参照)。

1ニーファイ 11:25 を家族または友人と一緒に読み、生ける水の泉と命の木との関係について話し合ってもよいでしょう。

労働は永遠の原則である

天の御父とイエス・キリストは、天と地球を創造するために働かれました。御二方は太陽、月、そして星を創造されました。海の水を集めて乾いた地とし、植物が成長するようにされました。それから海の中と地上の、すべての生けるものを創造されました(創世1章；モーセ2章参照)。御二方の模範により、天においても、地上においても、労働が大切であることが分かります(ヨハネ5：17；9：4も参照)。

神が御自身の形にかたどって男と女を造られたとき、彼らをエデンの園に置かれました(創世1：26-27；2：8)。後に彼らを園から追放されたとき、主はアダムに次のように語られました。「あなたは顔に汗してパンを食べ[る]。」(創世3：19) そのとき以来、アダムとエバは働いて、自分や子供たちの必要を満たしました(モーセ5：1参照)。

アダムとエバの時代から、地上に住むすべての人々にとって、労働は生活の手段となっています。わたしたちが労働するのは、自分自身や家族の肉体的、霊的、精神的な福利を得るためです。両親は労働の原則を教える家庭を確立するために努力します。子供たちの能力に合った仕事を割り当て、成果を褒めることによって、前向きな労働の経験を与えることができます。その結果、子供たちは堅固な労働倫理、良い態度、そして基本的な技術を身に付けることができます。

わたしたちは労働と休養の適切なバランスを探し求める必要があります。1週間のうちの6日、わたしたちが仕事の合間に元気を取り戻すような活動を取り入れることを覚えるなら、祝福されるでしょう。しかし、日曜日にはこの世の仕事を離れ、安息日を聖く保つという主の戒めを守るときに、主は特別な祝福を与えると約束されました(出エジプト20：9-11；教義と聖約59：9-19参照)。

労働は天と地上におけるわたしたちのための天の御父の計画の一部です。義にかなっているなら、わたしたちは天の御父のもとに帰ってともに住むことができます。そこでわたしたちは引き続き、神の王国を建設するのを助けるために働く機会が与えられるでしょう(モーセ1：39参照)。■

互いに助け合い、労働の重みを分け合うときに、最も重い労苦でさえも軽くなります。



**わたしたちは
自分自身と家族の世話をする
責任があります。**



1. 両親には子供たちの世話をす
るという神聖な義務があります
(教義と聖約 83 章参照)。



2. 子供たちは年老いていく両親の
世話をすることで祝福を受けます
(1テモテ 5:3-4, 8 参照)。



3. 可能な場合には、^{しんせき}親戚も助ける
べきです。



1. 自分の人格を強め、職業技術を
伸ばします。



2. 神がこの地上にいるわたしたち
のために用意してくださった計画に
喜びを感じます。

**祝福は
労働の結果として
訪れます。**



3. 3 か月分の食料、水、その他の必需品を貯蔵するとき、さらによく備え、自立
することができます。

「むしろ、貧しい人々に
分け与えるようになるために、
自分の手で正当な働きをしなさい。」
(エペソ 4:28)

詳しくは、『福音の原則』(2009年)、155-160と「家族
——世界への宣言」『リアホナ』2010年11月号、129を参照し
てください。

神に召され

ラモナ・ダットン

わたしは「預言によって、
また権能を持つ者による^{あんしゅ}按手によって、
神から召され[る]」ことの意味を、
身をもって学びました（信仰箇条 1:5）。



夫とわたしは新しい町に引っ越したばかりで、新しいワードに集うのを楽しみにしていました。ワードの区域にちょうど変更がなされ、そのワードは分割されたばかりでした。

2回目の日曜日の集会が終わると、わたしたちが新しいビショップと火曜の夜に会えるようにワード書記が手配してくれました。短く話した後、ビショップは夫に、新しいワードの初等協会会長としてわたしを召してよいか尋ね、それからわたしに召しを伝えました。わたしは驚きましたが、召しを断ってはいけなさと教えられていたので、最善を尽くすと同意しました。

ビショップはわたしに名前リストを渡し、顧問と書記を選んで2日後に会ってほしいと言いました。圧倒された気分で帰宅したわたしは、手洗いに閉じこもって泣きました。天の御父に心を注ぎ出し、新しい召しに対する不安を告げました。新しいワードでは知っている人がだれもいなかったの御父の助けが必要だったのです。祈り終わると、心が平安で満たされました。

翌朝、わたしは祈ってからいつもの

ように家事を始めました。ビショップがくれた名前リストが台所のテーブルの上にあったので、通り過ぎる度に目をやりました。何度かリストを見ると、二つの名前が目につくようになりました。わたしはリストを手に取り、名前を読み上げました。名前を出して読むと、温かい気持ちに包まれました。それほど強く聖霊を感じたことはこれまでありませんでした。

わたしはすぐに祈り、天の御父に呼びかけ、涙でほおをぬらしながらその名前を言いました。どちらの女性もまったく知りませんでした。彼女たちが顧問になるべきだと心で知ることができたのです。

その夜、わたしは名前リストについても一度よく考えました。リストを思い浮かべる度にある名前が浮かんできました。彼女は書記になりました。

翌日、ビショップと会って、顧問と書記の名前を伝えました。驚いたことに、この女性たちなら初等協会でも善い働きをするとビショップが思ったのと同じ姉妹たちでした。日曜日、教会に行くと、ビショップリックの第一顧問がわたしと礼拝堂の外に立ち、顧問と書記が到着したときにどの人か

御霊の導きを求める

「人が教会で奉仕するには、神によって召されなければならない（信仰箇条 1:5 参照）。指導者はだれを召すべきかを決めるに当たり、御霊の導きを求める。召しを果たすうえで必要なふさわしさについて考慮する。また、会員自身やその家族の状況についても考慮する。召しを通して、会員と家族および奉仕を受ける人々が益を得られるようにするべきである。」

『手引き 第2部——教会の管理運営』（2010年）、19. 1. 1

教えてくれました。その姉妹たちを見ていると、もう彼女たちを前から知っているような心地がしました。その女性たちが神から召されていることを御霊が再び確認してくださりました。

わたしは、自分たちが一致して主に仕えることができると確信しました。そして、そのとおりでした。その姉妹たちを知らなかったのですが、その召しにぴったりの姉妹でした。主はだれを召すべきか御存じでした。預言によって神から召されることの意味を、身をもって学べたことは成長のための良い経験になりました。■

愛ある母の 使命

ペイホラニ・カウバカ



子 供のころ、トンガで、母は時々セミナーを教えるのを手伝っていました。わたしが5歳から10歳までの期間、セミナーの前に母はよくわたしを起こして、クラスが開かれる家へ連れて行ってくれました。グアバの木々の間の小道を約400メートルに満たない道のみを歩くだけでしたが、母はわたしに「怖い?」と尋ねたものです。わたしは勇気をもって答えました。「怖くないよ。」

すると、母はこう言いました。「いつか勇気をもって天のお父様に仕えねばならないわ。お父様はわたしたちのためにあらゆるものを与えてくださっているの。わたしたちがお父様のもとへ帰って一緒に住むための計画もね。あなたもいつか伝道に出て、あなたの心と、勢力と、思いと、力を尽くして神に仕えるのよ。今から良い宣教師になる準備をしなきゃね。」

時がたち、両親は家族を連れてアメリカ合衆国カリフォルニア州オンタリオに引っ越しました。母は見知らぬ国で言葉を話せず、カルチャーショックを受けていました。翼の下にひなを集めるめんどりのように、子供たちを全員集めてはひざまずいて、授けてくださった子供が一人も末日聖徒イエス・キリスト教会から離れてしまわないようにと天の御父に懇願しました。両親は家族の祈り、毎日の聖文学習、家族での定期的な断食、家庭の夕べ、教会の集会を活用して、家族を強めるうえで天の御父の助けを求めました。

両親はわたしたちが幼いころから宣教師のよう

上——
著者の父親の
モーゼス、
母親のラビニア、
そして著者のめい、
カリフォルニア州
ロサンゼルス
神殿の
敷地において、
1999年。

に振る舞うように勧めました。いつも教会にワイシャツを着て行き、宣教師のような髪型をしました。わたしは祭司として聖餐を祝福し、弟たちは教師や執事として聖餐を準備して配りました。母と父が、わたしたちが自分の責任を忠実に果たすのを見守っている様子が見えました。

わたしが伝道で家を離れる前、母はこう言いました。「自分の役目を果たしなさい。そうしたら、母さんも自分の役目を果たすわ。あなたが教える人々を見つけられるように断食して祈るわ。」母は4人の息子全員が伝道に出ている間、ずっと断食し祈り続けました。わたしたちは忠実に奉仕し、名誉の帰還を果たしました。

母が亡くなる前に最後に会いに行ったとき、母はこう言いました。「ペイホラニ、わたしがこの世と次の世で最も大切だと知っていることは全部教えてきたわ。つまり、イエス・キリストの福音が真実であるということよ。イエス・キリストの^{あがな}贖いの血はあなたの魂の救いよ。神殿で主と交わした聖約を尊びなさい。そうするなら、わたしたちの家族はまた一緒になれるわ。わたしはこのことを一点の曇りもなく知っている。天の御父とイエス・キリストが生きておられるからね。」

わたしの証は母と父が語った一言一言によって福音の上に築かれました。両親がわたしたちに福音を教え、救い主へ導くという使命を果たしたおかげで、わたしたちの家族がいつかまた一緒になれることを知っています。■

ミ・ビダ、ミ・イストリア (わたしの人生、わたしの歴史)

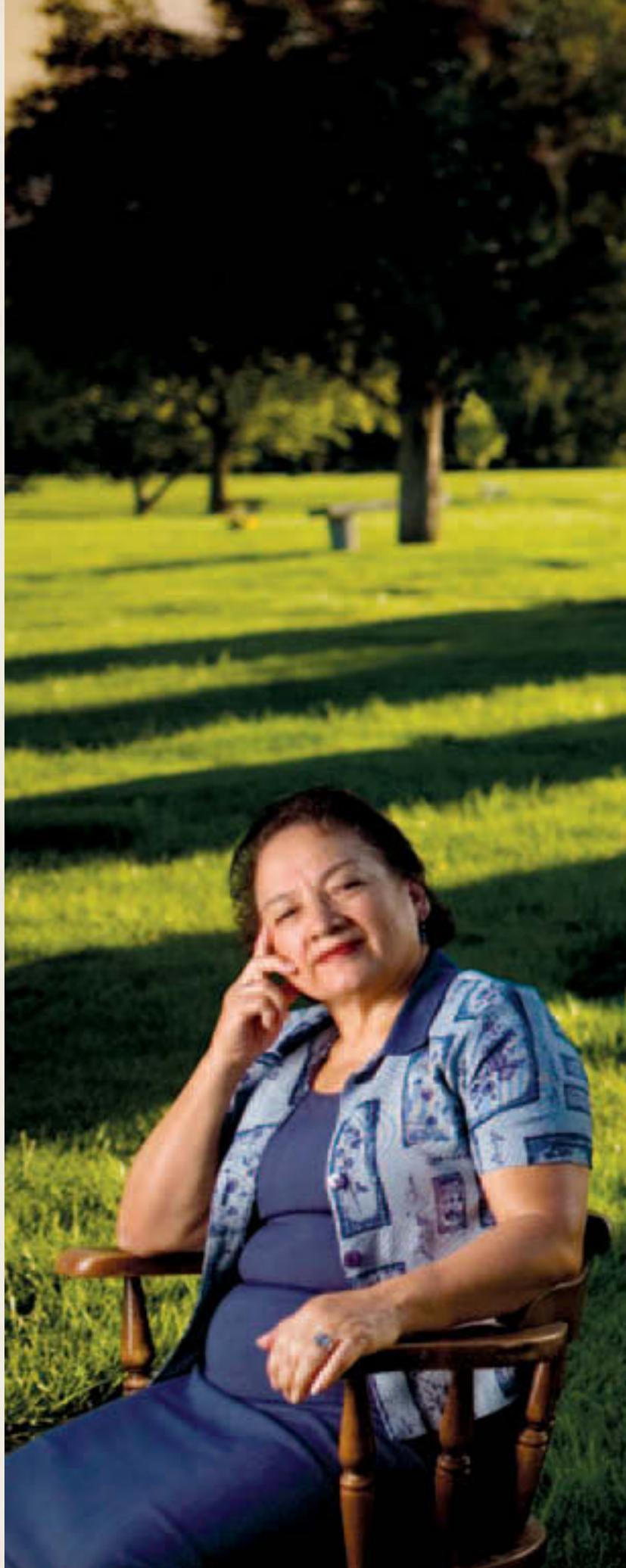
ラテンアメリカの末日聖徒の 信仰と靈感の物語

これらの末日聖徒は、最近、教会歴史博物館で開かれた展示会で、イエス・キリストの福音への確信と信仰の物語を分かち合いました。彼らはラテンアメリカに住む数百万人の聖徒を代表しています。

ユタ州ソルトレーク・シティーの教会歴史博物館では、2011年6月まで24の物語が展示されました。マルチメディア版（英語とスペイン語）の展示はインターネット lds.org/churchhistory/museum/exhibits/mividamihistoria で閲覧できます。

カルメン・エチェベリア・ウッド

グアテマラ・グアテマラシティーに住むカルメンは、信仰の篤い家庭に生まれました。9歳のとき、末日聖徒の姉妹宣教師が彼女の家族に福音を教えました。カルメンは初等協会に楽しく出席し、家族の皆が、これまでと違った、幸福を感じていることについて話しました。1年後、家族でバプテスマを受けました。カルメンはこう語ります。「すばらしい、ほんとうにすばらしい時でした。」彼女はデビッド・O・マッケイ大管長（1873 - 1970年）が1954年にグアテマラを訪問し、子供たちに自分の一原則を教えたことを覚えています。17歳のとき、カルメンは中央アメリカ伝道部で奉仕するように召され、「より良い人生を送り、永遠に一緒にいられるという希望」について伝えられることに感謝しました。





ミリアム・ フェルタ・アマト

ミリアムはブラジルに生まれました。伝道に出て奉仕したいと思い、志願書を書きました。

7週間後、家族が集まって見守る中、ユタ州ソルトレーク・シティー・テンプルスクウェア伝道部への召しの手紙を読みました。ミリアムはこう語ります。「おもしろいことに、手紙を読んだとき、わたしの家族はブラジルのサッカーのナショナルチームがゴールを決めたときと同じように、大声で叫びました。わたしもうれしかったです。主がわたしを遣わされるのだと分かりました。」



ネルソン・ モウスケス

ネルソンがパラグアイ・アスンシオンで生まれて間もなく、両親は宣教師と出会いました。「ある日、

父が家の玄関にいと、ヒグビー長老とジョンソン長老がやって来るのが見えました。でも、彼らが宣教師だとは思いませんでした」とモウスケス兄弟は回想します。「父は姉にイスを2脚出すように言いつけました。父は言いました。『あの若者たちはわたしたちの人生を変えるぞ。』長老たちが戸をたたくと、父は扉を開けて『どうぞお入りください。お待ちしていました』と言いました。父と家族全員が教会に入りました。」



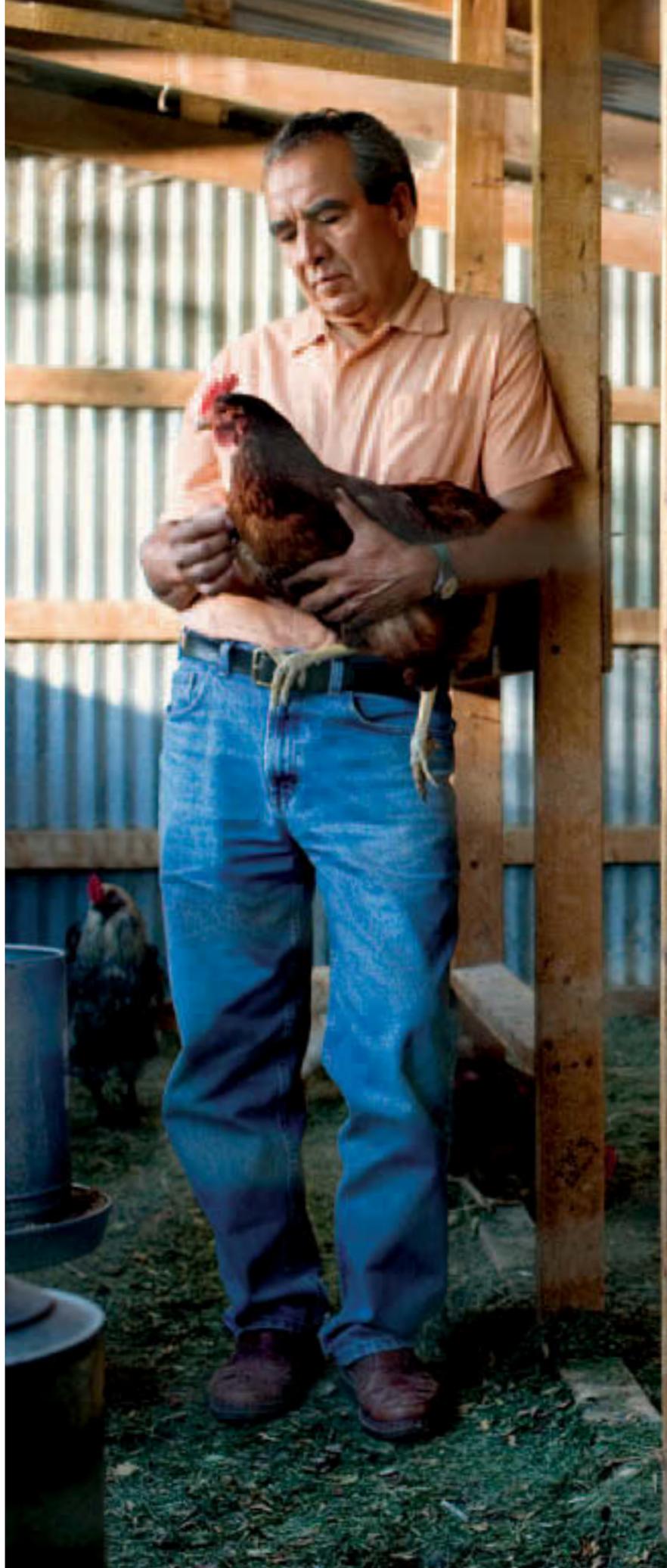
ロビン・メンドーサ

ロビンはエクアドルの貧しい環境で育ちましたが、もっと良い生活を送りたいと思っていました。ある日、プランテーションで一日に12時間働いているとき、導きを求めて祈りました。すると、祈っている最中に稲妻が光りました。ロビンはそれを、人生には希望があるという神のメッセージだと受け止めました。「自分の気持ちから来ていると確信しました」とロビンは回想します。信仰を通して人生を変えられるものだとことを知りました。16歳のとき、グアヤキルで働くために故郷を離れ、そこでバプテスマを受けました。続けて受けた靈感によりブリガム・ヤング大学に進学し、教育を受けるという志を遂げました。



ウルスラ・ビンデル・ブロック

ブロック姉妹はわずか5歳のときに人生の意味について深く考えたことを覚えています。彼女が10代のころ、ベネズエラで、宣教師が彼女と家族に福音を教え、皆でバプテスマを受けました。信仰あふれる彼女は16歳で支部の初等協会会長に召されました。奉仕に満ちた人生を送って、彼女は今、「信仰は選択」であることが分かりました。ブロック姉妹はこう説明します。「救い主がお入りになる場所を生活の中に作らねばなりません。贖罪が、全人類に対する、最もすばらしい、無私の愛の業であることを知るようになりました。救い主また贖い主であられる、平安をもたらす御方は、わたしの一番の親友、不変の友となりました。」





リンカーン・ピーターズ

リンカーンは10歳のときに母親が亡くなるまで、チリ・サンティアゴに家族で住んでいました。母の死後、おばとおじと同居しました。リンカーンが18歳のとき、バートン長老とベントリー長老がおばとおじの家に来ました。リンカーンのおばと祖母はすぐに福音を受け入れましたが、リンカーンは宣教師を避けました。ある日曜の朝、いつもは穏やかな祖母が彼の部屋に来て、ベッドのかけ布団をはがし、一緒に教会に行くように言いました。リンカーンは祖母の意外な言動に驚きつつも、祖母の望みを尊重し、起き上がって教会に行きました。その日、人生を変える、何か新しく力強いものを心に感じました。間もなく、彼はチリの教会における最初の改宗者の一人となりました。

ルイス・エルナンデスと カルラ・エルナンデス

ルイスとカルラは10代のころにホンジュラスで出会いました。二人は交際を始め、間もなく結婚しました。教会員でなかったルイスは「互いに敬意と愛を示す」カルラの両親を見てあこがれ、「彼らの価値観を知りたいと思いました。」間もなくルイスはバプテスマを受け、カルラとルイスはグアテマラ・グアテマラシティー神殿で結び固めを受けました。30代の初め、夫婦関係が危機に陥り、カルラは10代で結婚したことが間違いだったのだろうかとの疑問に思いながら家を出ました。ルイスは断食して祈り、「カルラを家に戻して下さるように」神に願い求めました。「すると、ほんとうにそうして下さりました。そうして下さったのです。」^{こんにち}今日、夫婦のきずなはかつてないほど強くなっています。





ノエミ・グスマン・ デ・アブレア

ノエミはアルゼンチンに生まれ、彼女の家族はそこで教会に入りました。ノエミが10代のときに家族で合衆国

に移住しました。アメリカ人であることを喜びながらも、アルゼンチンの文化を経験できるときがいちばん幸せです。「ラテンアメリカでは、皆がほんとうに、ほんとうに温かいんです。すぐに受け入れて、友達になり、フェロシップしてくれます。家族や友達とともにいることや、おいしいものを食べるのが大好きです。アルゼンチンのそのような文化はすばらしいし、それを味わうことはほかの何にも代え難いものです。」



オマル・カナルス

1948年、ウルグアイで、オマルの母親は二人の末日聖徒の姉妹宣教師に傘を差し出しました。それが縁で、母親は宣教師と話すよ

うになり、オマルの姉が後にバプテスマを受けました。1948年に生まれたオマルは、1947年に開設されたウルグアイ伝道部で最初に命名された赤ん坊となりました。オマルと両親は、彼が8歳のときにバプテスマを受けました。オマルが恋人と結婚してから数年後、彼らは合衆国に移住しました。すでにニュースキャスターとして働いていたオマルは1973年に教会に雇われ、総大会のスペイン語通訳者となりました。■

召し に應じる信仰

聖徒がソルトレーク盆地に入植してからわずか2年後の1849年、十二使徒定員会のパーリー・P・プラット長老は探索隊を率いて南部へ向かいました。南へ進むにつれ、地形はさらに険しくなりました。何人かの男性隊員がグレートベースンの端から3,000フィート(914メートル)南下し、バージン川とサンタクララ川の合流地点(現在のユタ州セントジョージ南部)に達したところ、その先は乾燥した砂漠地帯で火山質の荒れ地になっていました。調査隊の面々は気落ちしました。ある日記には次のように記されています。

「……起伏が激しく岩石と砂に覆われた地は名状し難い様相を呈している。まるで何もかもが一緒くたに投げ込まれたような、すさまじく乱雑な地域を踏み越えて、……進んで行った。……」

混沌とした風景がどこまでも広がっており、幾つもの巨大な丘や〔赤い〕砂地、わびしく草地のない平原、勾配の激しい岩場、ひび割れた不毛の泥土、……砂岩……などが想像も及ばない雑然とした有様で広がっている様は、要するに……前世代に起こった猛烈な激震によって天地が覆されたかのような……^{はいきよ}廢虚の地である。」¹

しかし南方に続く地がどんなに険しく見えても、東方のサンファン郡は吹きつける風に深くえぐり取られた岩壁や険しい峡谷が連なり、さらに荒れた地勢に見えました。教会の指導者は、この荒涼とした未開地の開拓が困難を極めるだろうと承知しながらも、なおその地に教会の共同体を築くことを望んでいました。そして1879年のパロワンステーク四半期大会で、ジョン・テラー大管長が発したサンファン伝道部設立の召しを、250人の会員が受け入れたのです。80台の荷馬車と1,000頭近くの牛や馬を引き連れて、開拓者は雪を頂く壮大な未開の山岳地帯や鋭くそびえ立つ岩山を

わたしたちは皆、
心が燃え立つような信念を
持たなければなりません。
この業は神の業であり、
「シオンの荒れた所」を築き上げるために
最善を尽くすよう求められている
という信念です。



最後の帳馬車(サン・アントニオの洞窟)

通り抜けて、行く手に道を切り開きながら進み始めました。

サンファンへの最短ルートを探りながら、これら探索隊の第1陣は難題に次ぐ難題を一つずつ乗り越えて進みましたが、間もなく最大の脅威となる障壁に直面しました。コロラド川峡谷の横断不可能としか思えない深い淵です。ところが疲れ切った調査隊が奇跡的にも峡谷の中に細い割れ目が一つあるのを発見しました。割れ目は赤土の崖を下方へ2,000フィート(607メートル)走り抜け、下を流れるコロラド川までつながっていました。東側へ渡るには、この死と背中合わせの「ホールインザロック(岩の割れ目)」を通り抜

十二使徒定員会

ジェフリー・R・ホランド長老



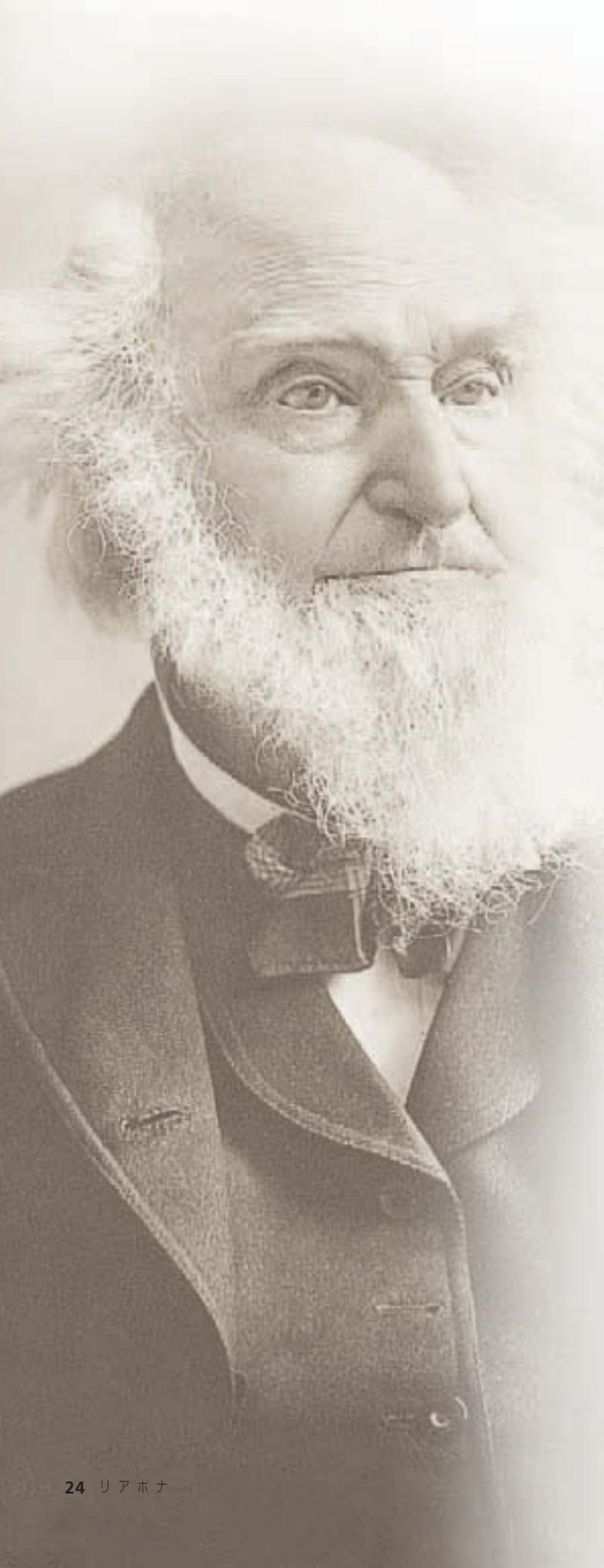
ける以外に選択肢はないようでした。

砂岩を切り裂いたような割れ目は大部分が非常に狭く、馬は通れませんでした。ところどころは人でさえ通り抜けられないくらい狭くなっていました。75フィート（23メートル）ほどもある急斜面が何か所もあり、荷馬車どころか野生の羊でも通れそうにありません。しかし、屈強な聖徒らは引き返そうとはしませんでした。爆薬と道具を使って、1879年12月と1880年1月のほとんどを費やし働き続けた末に、渓谷の絶壁面に原始的で危険に満ちた道を切り開いたのです。

何にせよ路面が完成したということで、目下の課題は「ホール（割れ目）」を通して先頭の荷車40台を下へ運ぶこととなりました。その後を、8キロ後方のフィフティーマイルスプリングで待機しているほかの荷馬車の隊列が続くことになっていました。

隊員らは一丸となって作業に取り組みました。長いロープを使って「12人かそれ以上の男たちが荷馬車を後方からつり下げ」、荷馬車がゆっくり斜面を下れるようにしたのです。その際、車輪が実際に回転して暴走しないよう鎖でしっかりと固定し、少しずつ落としながら下ろしていきました。

開拓者の歴史において最大の山場の一つに数えられる場面です。隊員たちは一瞬の油断も許されないこの絶壁に沿って、1台ずつ荷馬車を下ろしていきました。渓谷の底にたどり着くと、このときのために自分たちで作り上げた平台型の渡し舟で精力的に川を渡り始めました。結局、その日最後に崖を下ることになったのはジョセフ・スタンフォード・スミス一家の荷馬車でした。



これらの忠実な開拓者の模範の中に、
わたしたちは何を見ているでしょうか。
今わたしたちが見ているのは、
聖徒たちがニューヨーク州やペンシルベニア州、
オハイオ州、ミズーリ州から逃れる姿の中に、
その後、愛するノーブーから、
遠くに今にも燃え尽きようとしている神殿を見ながら
氷に覆われた川を渡って逃れる姿の中に見たものです。

それまでスタンフォード・スミスは、仲間と協力し合って先に崖を下りる荷馬車の手助けをしていました。ところが仲間たちは、どういうわけか最後になったスミス兄弟の家族がまだ助けを必要としていることを忘れたようです。自分と家族が置き去りにされたらしく、すっかり動揺したスタンフォードは、数頭の馬と荷馬車、家族を引き連れて絶壁の端まで移動しました。馬2頭は荷馬車の前に、3頭目の馬は後部の車軸につながれています。スミス一家は、一瞬立ちすくんで不安定な足もとの先にある穴をのぞき込みました。スタンフォードは振り向いて、妻のアラベラに言いました。「とても下りられそうにないよ。」

すると彼女は次のように答えました。「でも、やらなくては。」

夫は言いました。「何人かの兄弟が荷馬車の後ろで支えてくれさえしたら、できるかもしれないんだが。」

妻の返事はこうでした。「わたしが後ろで支えているわ。」

彼女は地面の上に1枚のキルトを広げ、そこに赤ん坊の息子を置くと、3歳のロイと5歳のアダの手にゆだねました。「パパがここに戻って来るまで、小さい弟を見ていてね。」そう言うと、アラベラ・スミスは荷馬車の後ろに立ち、後軸につながれている馬の手綱をしっかりと握り締めました。スタンフォードが谷底に向かって先頭の馬を引き始めると、荷馬車が前のめりに大きく傾きました。最初の一揺れとともに後ろの馬が足を滑らせました。スミス姉妹は全身の力と勇気を振り絞って手綱を引きながら、夫と荷馬車の後を追って走りました。たちまち彼女も転んでしまい、馬と一緒に引きずられて行く間に、とがった石にこすられて彼女の脚はかかとから臀部まで深い傷を負いました。この勇敢な女性性は、服を引き破られ、深い傷を負いながらも、傾斜した坂を引きずられながら川の縁に行き着くまでずっと、全精力と全信仰をもって手綱にしがみついていたのです。

谷底にたどり着いたとき、無事に崖を下りられたことがまったく信じられない思いでした。スタンフォードはすぐに

2,000 フィート (607 メートル) 上の崖の頂上まで駆け上がりました。子供たちが無事であるか心配でたまりません。崖の縁をよじ登ったときスタンフォードが見たのは、待つように言われた場所で文字どおりじっとしている子供たちの姿でした。スタンフォードは赤ん坊を腕に抱き、ほかの二人の子供としっかりと身を寄せ合いながら、岩の割れ目を下って行き、谷底で心配しながら待っていた母親のもとに子供たちを連

よる入植地の大部分がそうであったように、マディーでの生活は非常に厳しいものになると予想されました。マディーに移住する召しを受けたとき、移住者はそれぞれ、自身の心を深く省察しました。

1860年代にこの召しを受けた入植者の中には、きっと次のような疑問を口にした人もいたに違いありません。「地上のあらゆる場所のうち、なぜマディーなんだ？」ところでマディーへの入植の背景には現実に即した理由が幾つかありました。第1に、アメリカ南北戦争の影響で必需品の輸送がコロラド川経由になる可能性が高まっていました。第2に、南北戦争により従来の織物産地が分断されたため、何キロも離れていないセントジョージやワシントンの町々にすでにコットン伝道部が設立されていました。その伝道部向けの綿花をマディー川流域で栽培できるのではと考えられたのです。第3に、末日聖徒はその地域に住むネイティブアメリカンの部族に働きかけるべきであるという強い義務感を抱いており、彼らが食べていけるように援助し、教育を施したいと願っていました。

しかし、マディー地域は隔絶された不毛の荒地でした。暑さの中での重労働に引き換え、得られるものはなきに等しいと考えられていました。孤立しており、大部分が荒廃し、川はマディー (泥深い) ミッションの名が表すとおり、ぬかるみのようでした。

どのようにして、またどのような信仰と決意をもってマディーへ移住したかについて、入植者の一人の言葉を引用することにしましょう。彼女の言葉には、若者と老人のどちらもが、ここでは特に若者が抱いていた固い決意と不屈の精神、道義的な信念がよく表れています。エリザベス・クラリッジ・マックーンは、父親が受けたマ



現在の合衆国ネバダ州にある困難に満ちたマディー伝道部に家族とともに行くよう父親が召されたとき、エリザベス・クラリッジ (上) は泣きながらも、きっぱりと次のように言いました。「召されたときに行かないなら、わたしのお父さんじゃないわ。」

れて行きました。そのとき遠くから、5人の男たちが鎖と縄を手にこちらにやって来るのが見えました。スミス家族が窮地に立っていることに気づいて、手助けするためにやって来たのです。スタンフォードは大声で叫びました。「君たち、もういいんだ。ほくらは大丈夫だ。〔ベル〕がいれば、〔旅をするのに〕必要な助けは万全だ。」²

召されるとき

ホールインザロックの探索隊は、初期の聖徒が預言者の召しを受けたとき驚嘆すべき決断と献身によって召しに応じた多くの実例の一つにすぎません。もう一つの実例は、現在のネバダ州にあるマディー伝道部設立にまつわる召しです。初期の開拓者に

ディー入植の召しについて、次のように記しています。

「当時 15 歳のわたしにとって、大好きだったかつてのニューファイ〔ユタ州フアブ郡にある町〕ほど、大切に思われる場所は地上のどこにもありませんでした。ブリガム・ヤング大管長とその一行が定期的に訪問してくれるのを、どんなに心待ちにしていたことでしょう。……

……ブリガム兄弟、キンボール兄弟、ウェルズ兄弟が〔それぞれの〕一行を皆引き連れて馬車を降り、花が咲き乱れる道を通り抜けて……わたしの家へやって来ました。〔我が家では〕夕食を準備して一同に振る舞いました。……

全員で〔日曜日〕午後の集会に出席しました。白い服を着た少女たちがいつものように前の席に並んで座りました。何人かがすばらしい説教をする間、わたしたちは幸せな気持ちでいました。しかしその幸せはヤング大管長の発表があるまでのことでした。ヤング大管長の発表によると、マディーの地……へ行き、宣教師として入植するよう召されることになっている男性数人の名前が手もとにあり、賛意の表明を受けるために、これからその名を読み上げるというのです。この発表を聞いた聴衆全員が心臓の鼓動が止まるかと思うほどの衝撃を受けました。これまで仲間の多くがデキシー郡へ移住するよう召されていましたが、それにしてもマディーとは。南へさらに何キロも離れている所です。しかも、もっとひどい土地へだなんて。ああ！ああ！サミュエル・クラリッジ以外の名前はわたしの耳に入りませんでした。わたしはどんなに泣きじゃくり叫んだことでしょう。こぼれ落ちる涙が〔自分の〕新しく白いドレスを汚すのもおかまいなしでした。隣に座っていた女の子の父親も同様に召しを受けました。ところが、その

子はこう言いました。『何を泣いているの？ わたしは泣かないわ。だってお父さんは行かないって分かるもの。』そこでわたしは言いました。『でも、わたしのお父さんは違うわ。お父さんはきっと行くわ。お父さんを止められるものはないって分かっているもの。それに召されたときに行かないなら、わたしのお父さんじゃないわ。』それから、わたしは再び泣きじゃくり始めました。……



わたしたちは新しい家に引っ越して来たばかりで、そこを〔たいそう〕快適に暮らせるように整えていたので、家や農場を残しておくよう友人の多くが父を説得しようとしてきました。しばらくの間南部へ行き、そのうちまた帰って来るのだからと言うのです。しかし今回の召しは、これまで受けた召しとは違うと父には分かっていました。『持ち物は何もかも売り払うよ。シオンの別の荒れた所を築くの役に役立つ道具だけ持って行こう。』父はそう言いました。』³

御業みわざに対する信仰

当時 15 歳だったこの少女と彼女が生まれた家族の中にあつたこのような忠誠心と献身は、当時も今も一体何から生じるのでしょうか。多少勇敢

この業を推し進めることは義務であるばかりでなく、可能なことであり、予測されることであると同時に、何としても推し進めなければならないことです。こうした信念こそ、わたしたちの信仰の中核を成すものなのです。そうでなければ、母親や父親が間に合わせに掘った墓に幼い我が子を横たえ、二度と目にする事のないその墓に最後の別れを告げた後、どうして涙ながらもシオンを目指して前進して行くことができたのか、わたしには分かりません。

さに欠ける友達に向かって、この少女がきっぱりと「わたしのお父さんはきっと行くわ。お父さんを止められるものはないって分かっているもの」と言い得たのは何によるのでしょうか。どこからあのような不屈の精神が生まれて、次のように言葉を続けさせたのでしょうか。「それに召されたときに行かないなら、わたしのお父さんじゃないわ。」

何によってあの3人の幼い子供たちは、両親が荷馬車とともにコロラド川峡谷の縁の先に消え去って行くのをじっと見詰めながらも、母親の言葉を信じ、その言いつけを守ったのでしょうか。子供たちはその場にじっと座っている間、さぞ恐ろしい思いをしていたに違いありません。それでも動くまい、泣くまいと固く心に決めていたのです。

これらの忠実な開拓者の模範の中に、わたしたちは何を見ているのでしょうか。それは歴代の神権時代を通して、また確かに現代の神権時代を通して見てきたものです。今わたしたちが見ているのは、聖徒たちがニューヨーク州やペンシルベニア州、オハイオ州、ミズーリ州から逃れる姿の中に、その後、愛するノーブーから、遠くに今にも燃え尽きようとしている神殿を見ながら氷に覆われた川を渡って逃れる姿の中に見たものです。ノーブーを後にした聖徒たちがウィンタークォーターズで大勢の死者を葬った後、わびしい墓を残して旅を続ける姿にもそれは見て取れました。その墓は、パンを入れる箱ほど小さいこともしばしばあったのです。わたしたちはそれらを、ワイオミング州のチムニーロック付近やスイートウォーター川の数多くある渡し場の一つで、またはマーティンズコープの雪の吹きだまりの中で、聖徒たちの中に見てきたのです。

当時わたしたちが見たもの、また現在世界中の祝福された聖徒の間に見られるもの、それは神への信仰です。そして主イエス・キリストへの信仰、預言者ジョセフ・スミスへの信仰、この業や福音のメッセージが真実であるという信仰です。それは一人の少年を祈るために森の中に導いた信仰であり、ひざまずいた少年を立ち上がらせた信仰です。その信仰ゆえに、少年は福音を回復するために神の御手に自身をゆだね、最終的にはわずか24年足らずの後に殉教へと続く道を歩むことになったのです。

信仰がこれまで常に最優先事項であり、福音とわたしたちの働きにおける不変の原則であったことは何ら驚くべきことではありませんし、今後もそうあり続けるでしょう。この業を推し進めることは義務であるばかりでなく、可能なことであり、予測されることであると同時に、何としても推し進めなければならないことです。こうした信念こそ、わたしたちの信仰の中核を成すものなのです。

そうでなければ、母親や父親が間に合わせに掘った墓に

現在世界中の祝福された
聖徒の間に見られるもの、
それは神への信仰です。
そして主イエス・キリストへの信仰、
預言者ジョセフ・スミスへの信仰、
この業や福音のメッセージが真実である
という信仰です。

幼い我が子を横たえ、二度と目にする
ことのないその墓に最後の別れを告
げた後、どうして涙ながらもシオンを
目指して前進して行くことができたの
か、わたしには分かりません。どうし
てアラベラ・スミスのような女性が子
供たちを崖の縁に置いて、危険な斜
面に沿って無謀にも荷馬車を下ろすこ
とができたのか、わたしには分かりま
せん。どうしてサミュエル・クラリッ
ジが持ち物をすべて売り払い、シオン
を築くために荒涼としたマディー伝道
部に向かうことができたのか、わたし
には分かりません。これらの話にお
いて、人々を突き動かす根源的な力と
なったのが信仰です。試練の炎で精
錬され、豊富な経験と霊的な強さに裏
打ちされた岩のように固い信仰です。
これこそまさに、この教会が神の教
会であり、神の王国であるという信仰
であり、召されたときに応じる信仰な
のです。

信念を持ってください

現在でも、築くべき「シオンの荒れた
所」は存在しています。その中の幾つ
かは、マディーやサンファン伝道部よ
りずっと身近な場所です。わたしたち自
身の心の中や家庭の中にもあります。

そこで、わたしは信念を持つよう声
を大にして申し上げます。この業は神
の業であり、でき得る最善の努力が
求められているという心が燃え立つよ
うな信念を、わたしたちは皆、持たな
ければなりません。皆さんにお願い
したいのは、様々な任務や試練、要求
が次々と押し寄せるときに頼みとなる
信仰が皆さんの中に十分に蓄積され
ているように、肉体的および精神的な
強さを培ってほしいということです。
今よりも少し頻繁に祈り、もう少し
熱心に福音を研究してください。この
世の騒音を締め出し、喧噪を静めてく
ださい。自然を味わい、個人の啓示を

願い求め、自身の魂を探ってください。
わたしたちの先祖である開拓者を導
いた証^{あかし}を得られるよう天に尋ね求めて
ください。そうすれば、皆さんが人生
に立ち向かい自身の業をなすため、自
身の内面にさらに深く分け入る必要が
あるとき、そこには確かに皆さんがより
どころにできるものがあるでしょう。

皆さんが自分自身の信仰を持つな
ら、家族を祝福できるようになります。
教会において、行動や奉仕の指標とな
り、献身や忠誠心を表す尺度として唯
一最も信頼できるのは、今も変わらず
家族の強いきずなの存在です。わたし
はこの教会が放つ威光の一端は会員
一人一人が内に持つものであることを
十分承知したうえで申し上げます。
そのような会員は、時には新しい改宗
者であり、時には家族の中で唯一の
末日聖徒です。地域によっては、一人
の会員が自身の中に信仰の旗印を打
ち立て、福音の新しい世代を築き始
めなければなりません。しかし実際には、
信仰を強め合う家族がそろっている
とき、信仰はより十分にはぐくまれ、
より守られ、より長きにわたって維
持されるのです。ですから、独りで立
ち向かってきた皆さんは、皆さんの家
族が独りで立ち向かうことのないよう
に熱心に努めてください。皆さんの家
族を築き、家庭の中に力強い信仰があ
るようになってください。

そうするならば、わたしたちはすぐ
近くで、あるいは召されたなら遠く離
れた辺境の地で、教会のために奉仕
することができます。そして、迷い出
た羊である教会員や教会員ではない
人を、生者か死者かにかかわらず探
し出すことができます。この業は、迷
い出た羊を探している間、自身の小さ
な群れである家族を含め、ほかの
99匹の羊が安全な囲いの中で守られ
ていてこそ賢明にまた適切に成し遂
げられます。わたしたちが家庭で家

族を愛し、教えているなら、年若いエ
リザベス・クラリッジがそうであった
ように皆さんの家族もはっきりと理解
するでしょう。召されたとき、皆さん
の父親や母親、兄弟、姉妹が召しに
応じて行こうとするのを皆さんは確信
できるでしょう。

なすべき業がここにあります。隣人
のだれもが深い信仰を持っていると
は言えませんし、だれもが堅固な家族
を築いているわけではありません。
周辺や遠くにいるだれもが福音のメッ
セージを聞いて信者になり、教える者
になり、神殿に足を向ける末日聖徒に
なっているとも言えません。この世は
ますます邪悪さを増しており、将来迎
える時代はわたしたちのうち最も善
良な者に戦いを挑んでくるでしょう。
しかし、スタンフォードやアラベラ・ス
ミスのような人々、サミュエル・クラ
リッジや彼の勇気ある娘エリザベス
のような人々が打ち勝つとき、義の軍
勢は常に勝利を得るでしょう。

わたしたちはこの業に対する信仰、
すなわち信じる者すべてが召されて
いるこの業に対する信仰、そして主
イエス・キリストと天の御父を信じる
信仰を持たなければなりません。わた
したちは自らの思いを主や御父の
御心^{みこころ}に従わせ、開拓者に倣って実
に岩のように堅固にする必要があります。
そうするなら、地上の教会と神の王国
が今後、とどまることなく前進する中
にあって、わたしたちは安全に守られ
るでしょう。■

注

1. ミルトン・R・ハンター、*Brigham Young the Colonizer* (1973年)、47で引用
2. デビッド・E・ミラー、*Hole-in-the-Rock: An Epic in the Colonization of the Great American West* (1959年)、101-118参照、強調付加。句読点は標準的な用法に修正
3. エリザベス・クラリッジ・マックーン、スーサ・ヤング・ゲーツ、“Biographical Sketches,”で引用。*Young Woman's Journal*, 1898年7月号、292、293、句読点は標準的な用法に修正

中央扶助協会会長
第二顧問
バーバラ・トンプソン



「わたしが あなたがたを 愛したように」

愛と奉仕は、わたしたちを
キリストの弟子として
際立たせます。

以前わたしにはルームメート
がいました。すてきな人で
したが、わたしのやること
なすことほとんどが気に入らないよう
でした。わたしはこう思いました。
「わたしのどこが気に入らないという
のかしら。わたしと一緒に暮らすのは
とても簡単なのに。そうでしょう？」

彼女がわたしを嫌っているのをい
いことに、それを自分も彼女を愛さな
いことの言い訳にしていました。幸い
なことに、わたしは大学時代に聖餐
会せいさんでビショップが話してくれたアドバ
イスを思い出しました。今も鮮明にそ
の勧告を覚えています。「もしだれか
のことをあまり好きでないとしたら、
それは恐らく、あなたはまだその人
のために十分な奉仕をしていないとい
うことでしょう。もし奉仕したら、そ
の人のことが好きになるはずです。」

ビショップから受けたアドバイスに
ついて考えた後、わたしはこのルーム
メートに奉仕し、ビショップの勧告が

ほんとうかどうか試してみようと決心
しました。そして、ルームメートを助
けるちょっとした方法を探し始め、親
切にしたり、彼女の必要や願いにもつ
とこたえたりしました。

そして、すぐにも奇跡が起こったの
です。自分がほんとうに彼女を愛し
ていることが分かりました。彼女は
すばらしい、才能あふれた人でした。
アパートで彼女と一緒に暮らすのは
祝福でした。彼女に対する自分の見
方がそれほど短い間に変わったこと
に驚嘆しました。

人を愛し、人に仕える

ヨハネ第 13 章を調べると、救い主
が地上での務めを果たされる間にお
教えになった最も重要な教訓の幾つ
かが分かります。それには次のような
ことが含まれます。

1. 互いに奉仕し合う。
2. 互いに愛し合う。

イエスが
十二使徒に学んでほしい
と望まれたこと、
またわたしたち
一人一人に学ぶよう
望んでおられることが
あります。
それは、謙遜けんそんさと奉仕こそ
わたしたちが
身に付けようと求めるべき、
ふさわしい特質である
ということです。
イエスは、
人に奉仕できないほど
重要な人はいない
とお教えになりました。



救い主が使徒たちと過越すきごしの食事を共にされたとき、部屋は静かで敬虔けいけんな空気に包まれていました。救い主は、御自分が間もなく引き出され、十字架にかけられることを御存じでした。使徒たちがその晩、数々の出来事の重要性を理解していなかったとしても、間もなく救い主の使命について学び、さらに理解を深めていったことは確かです。

夕食の後、イエスは手ぬぐいを取り、水をたら

いに入れて、そこにいた一人一人の足を洗われました。敬虔に、そして謙遜けんそんに足を洗われた救い主は、差し迫る裏切りを含め、間もなく起こる数々の出来事を思い、悲しみと向き合っておられたに違いありません。

イエスがメシヤであり、約束の救い主であられると知っていたペテロは、主に仕えていただくのではなく、自分が主に仕えたいと望みました。すると救い主は「もしわたしがあなたの足を洗

わかないなら、あなたはわたしとなんの係わりもなくなる」と言われました(ヨハネ13:8)。それを聞いてペテロはためらうことなく救い主の愛に満ちた奉仕を受け入れました。

その後、イエスはこのように説明しておられます。

「あなたがたはわたしを教師、また主と呼んでいる。そう言うのは正しい。わたしはそのとおりである。

しかし、主であり、また教師であるわたしが、あなたがたの足を洗ったからには、あなたがたもまた、互に足を洗い合うべきである。

わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするように、わたしは手本を示したのだ。」(ヨハネ13:13-15)

イエスが十二使徒に学んでほしいと望まれたこと、またわたしたち一人一人に学ぶよう望んでおられることがあります。それは、謙遜さと奉仕こそわたしたちが身に付けようと求めるべき、ふさわしい特質であるということです。イエスは、人に奉仕できないほど高貴な人はいないとお教えになりました。事実、わたしたちを偉大な者とならしめるのは、喜んで奉仕し、自分をささげようとする心です。救い主が言われたように「あなたがたのうちでいちばん偉い者は、仕える人でなければならぬ」のです(マタイ23:11。ルカ22:26も参照)。

救い主の模範に従う

このことを考えるとき、過去数か月、あるいは数年の間に起きた自然災害の後に行われた奉仕を思い出します。わたしたちは嵐や地震、飢饉や伝染病を目の当たりにしてきました。多くの人が、自らも被災しているにもかかわらず、けがを負った人や病気の人、またその他の理由で困っている人を世話しました。

ペルーの地震で何千もの家が崩壊した後、あるビショップは崩れ落ちた自分の家を後にして、ワードの会員の消息を確かめ、自分の小さな群れを祝福し、慰めるために奔走しました。

ハイチのある母親は、地震で家族を失ったことを嘆きながらも、生き残った人々を励まし、食料や避難場所を探すのを手伝うなどして、打ちひしがれた人々の心を慰め、恐れを鎮めるために援助の手を差し伸べたのです。

チリのヤングアダルトは、地震による被災者に食べ物や物資を届けようと急いで助けに行きました。奉仕している彼らの笑顔や進んで差し出す手からは、彼ら自身も不安定な状況にあるという事実は微塵も感じられませんでした。

このすべての人々や、ほかの多くの人々は、「わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするように」という救い主の呼びかけに聞き従ったのです(ヨハネ13:15)。ヨハネ第13章の続きにはこのように書かれています。

「わたしは、新しいいましめをあなたがたに与える、互に愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい。

互に愛し合うならば、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての者が認めるであろう。」(34-35節)

トーマス・S・モンソン大管長をはじめ、十二使徒や各地のステーク会長会、地方部会長会、ビショップリック、教師など、教会指導者が自分の仕える人々への愛を頻りに語るのに気づいたことがありますか。この愛は、救い主の模範に倣うことから来るものです。

人々に奉仕することは、その人々に愛を示す方法です。恐らく愛と奉仕は同じものなのでしょう。まことに、愛と奉仕はわたしたちをキリストの弟子として際立たせます。■



キリストのような愛を人々に差し伸べる

「どのようなときでも愛そうではありませんか。そして、特に逆境にあるときには、兄弟姉妹のそばにいて、支えようではありませんか。……

キリストのような愛をもって人に手と心を差し伸べるとき、すばらしいことが起こります。わたしたち自身の霊が癒され、精錬され、強くなるのです。さらに幸福になり、さらに平安になり、聖なる御霊のささやきがさらに受けやすくなります。」

大管長会第二顧問
ディーター・F・ワークトドルフ管長
「あなたはわたしの手である」
『リアホナ』2010年5月号, 70, 75





チチカカ湖に浮かぶ島ウタマに新しいトラ葦あしの層を重ねるネルソン・コイラ兄弟(左)。彼と家族(上)はこの島に住んでいます。

信仰の島—— 勤勉の物語

コイラ家族が沈まずに暮らすには、
ただ、定期的に島を築き続けることしかありません。

教会機関誌

アダム・C・オルソン

ネルソン・コイラ兄弟と妻ドラは島に住んでいます。しかし海や湖から突き出ている、硬い岩でできた普通の島ではありません。ペルーのチチカカ湖に浮かんでいる葦あしだけを使って自分たちの手で作った小さな島に住んでいるのです。

島を築き上げ、住みかにするには信仰が必要です。わずか1メートル余りの厚さに重ねた葦が、摂氏10度の水に浮かぶ島に住むコイラ家族と12ほどの小屋を支えています。彼ら

の島の家は、自然の力によって文字どおり破壊の危険に絶えずさらされています。

しかしネルソンとドラにとってこの島は、二人が家族のために霊的に築こうとしているものを、目に見える形で表しています。団結してこの世に立ち向かう信仰の島なのです。

これまで彼らが学んできたことは、信仰を築くにはそれを維持する勤勉さが常に伴わなければならないということです。

ウロス族の浮き島

ウタマは約50ある浮き島集落の一つです。集落にはウロス族の子孫が何百人と住んでいます。ウロス族は、これまで何百年もの間このような島に住んできたインカ帝国時代以前の民です。

普通は、親戚関係しんせきにある複数の家族が一つの島に住み、島が沈まないように協力しています。コイラ家族の住むウタマのもう半分には別の家族が住んでいます。最も大きな島の中には10もの家族が住んでいる所もあります。

島は湖の底に長いロープでゆるくつながれています。しかし、2010年に異常な強風によって40の島が元の場所から数キロ離れた所まで流されるということがあってからは、
錨いかりでさらにしっかりと固定するようになりました。



継続する理由

幾世代にもわたってこのような島を築き、そこに住んできたウロス族の人々にとって、トトラ葦は日々の生活に欠かせないものです。チチカカ湖の浅瀬に生育するこの葦は、料理用の燃料として使われるほか、根は食べることができ、皮は治療に使うこともできます。そしてもちろん、住まい、伝統的な船、見張り台、島そのもの、そしてくず入れさえも、ほとんどのものが葦で作られているのです。

ウロス族の人々は葦を幾層にも重ねて島を築きます。しかし、建築材料としてはトトラ葦は耐久性がありません。乾期には太陽の熱で乾燥し、雨期には湿気で腐食が速く進みます。水に沈んでいる下層は徐々に腐敗してきます。

コイラ家族の島が浸食され続けるということは、ネルソンが10日から15日おきに、新しい葦の層を加えなければならぬことを意味します。

「島を築くのは最初の一步にすぎませんでした」と彼は言います。「葦を重ねるのをやめたら、島は徐々に崩壊してしまうでしょう。しかし、さらに層を重ねるにつれて、長い間をかけて島は強くなっていくのです。」

引き延ばす危険

葦の層を重ねるのは、複雑なことでも難しいことでもありませんが、労力が要ります。後回しにするのは簡単です。

しかし、引き延ばすことによって、もろくなった箇所に家族のだれかが足を突っ込み、冷たい水の中に落ちてしまう危険が増します。大人が足を取られても大事には至りませんが、コイラ

家の2歳の息子エマーソンのような幼い子供にとっては命取りになります。

そこでネルソンは、今日のうちに葦の層を重ねます。明日の家族の安全がかかっていると知っているからです。

勤勉についてのこの教訓は、コイラ家族の生活に大きな影響を及ぼしてきました。

勤勉の効果

勤勉とは、障害があっても、何かを粘り強く続けることです。¹ ドラが1998年にバプテスマを受けた後にまず学んだのは、勤勉であることがどんなに重要で、どんなに難しいかということでした。

ドラが17歳のとき、彼女と妹のアリーシャがバプテスマを受け、ウロス族の島で教会の発展に貢献しました。しかし約1か月後、父親から教会と

チチカカ湖に住むコイラ家族、ネルソン、ドラ、エマーソンの3人とウロス族の人々にとって、トトラ葦は生活を支える重要なものです。しかし、福音の原則と同じように、いつも欠かさず生活に取り入れなければなりません。





絶えず信仰を強める

「たとえ現在大いなる信仰をもって神に従っているとしても、その信仰がさらに強くなるよう絶えず努力し、常に新たな信仰が増し加えられるよう心がける必要があります。……早い時期から始め、絶えず積み重ねていくことが霊的な備えを行う鍵です。先延ばしや怠惰は、霊的な備えにとって大敵です。」

大管長会第一顧問
ヘンリー・B・アイリング管長
『霊的な備え——早くから始め、絶えず積み重ねる』
『リアホナ』2005年11月号, 38



忠実な家族

「実に謙虚な気持ちになりました。忠実な末日聖徒の家族から、このチチカカ湖に浮かぶ小さなアブインティ島のために祈り、〔彼らの〕家と家族を祝福して下さるように主に願い求めてほしいと言われたのです。」

七十人會會長
ロナルド・A・ラスバンド長老
『特別な経験』『リアホナ』2008年5月号, 12 参照

この物語の写真をもっと見るには、
liahona.lds.org を参照してください。

かかわることを一切禁じられました。

しかし、奇妙なことが起こりました。二人は一緒にいるのが急に楽しくなくなり、よくけんかするようになったのです。父親は、教会の活動に参加している間は二人が良い変化を遂げていたことに気づきました。

「そのことで父の考えが変わりました」とドラは言います。「わたしたちが必ず時間どおりに教会に着けるように、父が朝早くわたしたちを起こすようになったのです。」

ドラは、福音によって自分たちに起こった変化はアリーシャと自分が欠かさずしている小さな事柄によるものだと感じています。什分の一を納めることや祈ること、聖文を研究することや安息日を聖く守ること、また聖餐を受けることによって毎週聖約を新たにすることなどです。

後に、信仰と勤勉によって起こる変化を見てきて²、ドラの父親も家族の残りの人々とともに教会に入りました。

勤勉の報い

障害があっても正しいことを粘り強くやり抜くことが、主の聖約の民に求められています。しかし、主は以下の事柄を勤勉に行う人々に、大いなる祝福を約束しておられます。それは、祈り³、主の戒めを守る⁴、啓示に注意を払う⁵、聖文を研究する⁶、主の業に働く⁷ことです。

文字どおりにも比喩的にも信仰の

島を維持し続けるという経験を通して、コイラ家族は勤勉の報いが現実のものであることが分かりました。「働いたり、料理したりなど、毎日の繰り返しに息が詰まりそうになることもあります」とネルソンは語ります。「わたしたちが神を忘れると、物事はこじれてきます。さらに多くの問題が起きて、様々なことがうまくいかなくなってくるのです。」

ネルソンは話すのをやめて、その日の朝に重ねた葦の層を指さして言い



ます。「絶えず続けていけば、つまり、きちんと祈ったり、学んだり、断食したり、家庭の夕べを開いたりしていけば、さらに強くなるのです。」■

注

1. Merriam-Webster's Collegiate Dictionary 第11版 (2003年), diligence の項参照。persevere の項も参照
2. アルマ 32:41-43 参照
3. 1ニーファイ 2:18-19; 10:17-19; エノス 1:12 参照
4. 1ニーファイ 15:8-11; 16:28-29; エノス 1:10; モーサヤ 1:11:4:6 参照
5. モーサヤ 1:16; アルマ 12:9-11 参照
6. モーサヤ 1:6-7; アルマ 17:2 参照
7. モルモン書ヤコブ 1:19; 5:75; モロナイ 9:6 参照



こども

水を恐れない

ペルーのチチカカ湖に浮かぶアプインティ島に住むジョセフ

アダム・C・オルソン 教会機関誌

7歳のジョセフはこれまで水の周辺で育ってきました。あるいは、ペルーのチチカカ湖の冷たい水に囲まれて育ってきたと言えるでしょう。水に浮かぶ葦でできた小さな島に住んでいるからです。

ジョセフの家族はウロス族の一人です。ウロス族の人々はこれまで何百年もの間、チチカカ湖に浮き島を作り、そこに住んできました。湖で魚をとり、湖で体を洗い、島から島へ船で湖を移動します。

皆さんは、ジョセフは水に慣れているので、数か月後に控えたバプテスマでバプテスマフォントに立つことを考えたときに緊張することはないだろうと思うでしょう。でも、ジョセフは、ほかのたくさんの子供たちと同じ気持ちを感じています。

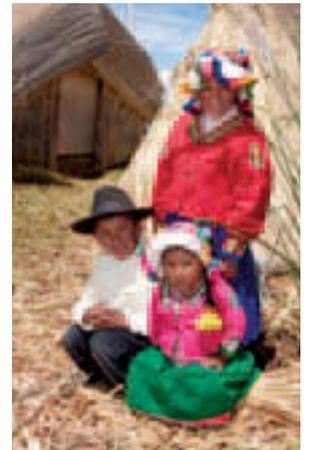
「わくわくしています」とジョセフは語ります。「でも、水に入るのが怖いんです。」

辺り一面水に囲まれているウロス族の子供たちは、水に注意するように教えられています。ですから、ジョセフが両親に不安な気持ちを話した後、家族は家庭の夕べでバプテスマについて話し、ジョセフとお父さんは、なすべきことを練習しました。

「お父さんがほくにバプテスマを施してくれます」とジョセフは言います。「お父さんはほくがあまり恐がらないように助けてくれました。」

ジョセフは今、バプテスマに向けて熱心に準備しています。特に初等協会で注意深く話を聞き、信仰箇条を覚えています。それは今も将来にわたっても役立つことを知っているからです。

「ほくは伝道に行くつもりです」とジョセフは語ります。「ニーファイが言ったように、ほくは行って主が命じられることを行います。」(1ニーファイ3:7参照) ■



ジョセフの好きなこと

- ニーファイが真鍮の版を取りに行った物語(1ニーファイ3-4章参照)。
- 信仰箇条第10条。
- おいやめい(写真上)と遊ぶこと。
- マスのフライと、フライドポテトを食べること。
- 自分の子羊の世話をすること。



論文とモルモン書を守る

大学生のときのことです。履修していた優等生特別コースでは論文を書くことが義務付けられており、論文は二人の教授の指導を受け、承認を得ることが必要でした。

わたしは、モルモン書における戦争の研究と分析を論文のテーマに選び

ました。それについて助言を求めた一人の教授は、わたしの指導教官になることに同意してくれただけでなく、二人目の指導教官としてもう一人の教授を提案してくれました。

わたしは論文のテーマを説明するためにその教授と会いました。ところが、モルモン書について話し始めた途端に教授の態度が一変し、教会を批判し始めたのです。わたしは彼が話し終えるまで静かに聞き、その後で、教会の信条に関して教授が誤解しているように思うと簡単に伝えましたが、驚いたことにわたしの論文指導

するとすぐさま、
教授は激しい非難を
浴びせてきました。
しかしそれは論文ではなく、
モルモン書に対する非難でした。
できるかぎり冷静に、
わたしはモルモン書の証を
述べました。



を引き受けてくれました。

研究と執筆に1年近く費やし、教授の承認を得るために論文を提出しました。その年、わたしは法科大学院の入学が認められていたので、大学を卒業して先に進むためにはこの課題を果たすことが必要でした。

1週間たらずに、教会を批判した教授から電子メールが来ました。オフィスに来るように、ということでした。

わたしが着くと、教授はドアを閉めて座るよう言いました。するとすぐさま、彼は激しい非難を浴びせてきました。しかしそれは論文にではなく、モルモン書に対する非難でした。わたしはできるかぎり冷静に、モルモン書の証^{あかし}を述べました。

そして、ためらいがちに、今でもわたしの論文を承認してくれるかどうか尋ねました。教授は承認するつもりはないと答えました。

落胆して、どうしてよいか分からないまま家に帰りました。この教授の承認がないままでは、優等生特別コースの卒業も、法科大学院への入学もできなくなります。なんとかすべてうまくいくように祈りました。

論文指導に当たってくれていたもう一人の教授に事情を説明すると、翌日もう一度教授を訪ねて論文の承認を頼んでみるよう助言を受けました。

翌朝、わたしは教授のオフィスの前で待っていました。再びわたしに会って教授がどのような反応を示すのか分からず、緊張しました。教授は部屋に着くと、黙ってオフィスのドアを開け、わたしに中に入るよう身ぶりで示しました。無言のままペンを取った彼は、わたしの論文にサインしました。正式な承認を与えてくれたのです。

教授は、何が気持ちを変えたのかは言いませんでしたが、別れのあいさつをするわたしにほほえんでくれました。

この教授に証を伝える機会があったことに感謝しています。自分の信じることを擁護するとき、天の御父がわたしたちを強めて祝福してくださることを知っています。■

スコット・マクドナルド
(アメリカ合衆国、カリフォルニア州)

兄と再会するとき

子供のころのわたしには、兄のファン・フェルナンドがほかの子供たちと同じように走ったり遊んだりできたらいいのという強い願いがありました。どうしてそれができないのか母に聞くと、兄が生まれたときに酸素が足りなかったために脳に重い障害を受け、それが原因で走ったり遊んだりすることができないのだと話してくれました。

兄は一生をベッドで過ごしました。教会で育ったわたしは兄の状態を理解し、それを受け入れていました。また、彼の霊が偉大であることも知っていました。歩いたり走ったり、話したりする兄の姿を見ることなど想像もできませんでしたが、それでも幼心に、兄もほかの人と同じだったらどんなにいいだろうと思っていました。

わたしには心配していたことがありました。兄より先に家族の皆が死んでしまったら、だれが兄の世話をするのだろうかということです。天の御父がファン・フェルナンドより先に、わたしたちを連れて行かないでくださいと、心

から祈りました。御父がその祈りにこたえてくださることを知っていました。

ある寒い冬の午後、兄は16歳で亡くなり、わたしたち家族にはぼっかりと大きな穴が開きました。しかし、悲しみと同時に希望も感じました。兄が亡くなって2、3日たったある日、兄のことを考えているうちに眠ってしまったわたしは、美しい夢を見ました。

わたしは歩いていましたが、雲がかかっていて周りあまりよく見えません。遠くに何かが見えたので、それに向かってゆっくり歩き続けました。そばによって見ると、それはきれいな花をいっぱい積んだ荷馬車でした。じっと見ていると、白い服を着たハンサムな若い男性が馬車のそばに立っているのに気づきました。だれだろうと思って見ると、それは兄だったのです。兄に会えてどんなにうれしかったことでしょう。兄はわたしに言葉をかけてくれました。兄を抱き締めてキスをしたと思いました。そこで目が覚めました。

兄の声を聞き、健康そうな姿を見たことをとても感謝しました。わたしたちが再会するときのことは、今はまだ想像することしかできませんが、きっと抱き合い、キスをし、愛に満ちた言葉を交わすことでしょう。それができるのもすべて、イエス・キリストの贖^{あがな}いがあるからです。救い主のおかげで、わたしたちすべての人が墓からよみがえり、家族として再会することができます。そして、もう決して離れることはないのです。

アミュレクの言葉を思い出します。「霊と体は再び結合して完全な形になり、手足も関節も……その本来の造りに回復される。」(アルマ11:43) ■
マリア・イサベル・バラ・デ・ウリベ(メキシコ)

カルガリーにおけるわたしの開拓者時代

1947年、わたしはイングランド北部にある小さな町で生まれました。15歳のときに友人の紹介で宣教師と出会い、教会員となりました。しかし、家族は改宗しませんでした。

教会初期の開拓者について学ぶうちに、大平原を渡った先祖からの受け継ぎを持たないことが不公平ではないかと思うようになりました。しかし福音の理解が進むにつれて、気持ちが変わりました。

わたしのような人が教会に入ることができるのは、初期の開拓者が努力して道を整えてくれたおかげであることを理解するようになったのです。わたしに福音を伝えてくれた二人の宣教師はそのような開拓者の子孫です。ですから、わたしは開拓者に大きな恩義を負っているのです。わたしも特別な方法で開拓者となつていけると感じるようになりました。

また、わたしも惜しみなく、勤勉に働く人たちの遺産を**確かに**受け継いでいることに気がつきました。彼ら自身は決して手に入れられなかったものをわたしが持てるように、そして、今わたしが享受している自由を与えるために、彼らは犠牲を払い、懸命に働き、戦争で戦いさえたのです。両親は教会員にはなりませんでした。二人が良い価値観と原則に従って育ててくれたおかげで、わたしは福音を受け入れる備えができたのです。

こうして、開拓者にも様々な種類の開拓者がいることを知りました。わたしは教会の第一世代の教会員です。わたしがバプテスマを受ける決心をしたことを家族は快く思いませんでした。

そのために、教会の集会に出席することは困難でした。わたしたちの小さな支部は、会員、特に神権者の数が少ないために苦勞していましたが、最終的に、伝道部は支部を閉鎖する予定であることが明らかになりました。

その結果、わたしはカナダへの移住を決心したのです。最もつらい決断の一つでした。一人っ子のわたしは両親をととも愛していましたし、両親も同じようにわたしを愛してくれました。しかし、教会に行くことのできない所にいたのでは、証が弱くなってしまう恐れがありました。今でも、出発した夜のことを覚えています。父は列車のわきを走りながらわたしにキスを投げかけ、母はただ見つめていました。つらくて心は張り裂けそうでしたが、そこを出なければならぬことは分かっていました。

1967年5月の母の日に、アルバータ州カルガリーに着きました。滞在させてもらっていた会員と一緒に教会に出席したわたしは、集会の間ずっと泣いていました。また、故郷の両親に手紙を書いたときも涙が止まらなかったことを覚えています。カナダが大好きなこと、でもイングランドと家族がとても恋しいことを伝えました。

ホームシックと孤独感、そして失望感にさいなまれてなかなか新しい生活になじめませんでした。福音に忠実でした。出席すべき集会にはすべて出席し、召しを受けました。それがわたしの開拓者時代でした。

やがて夫と出会い、アルバータ州



今でも出発した夜のことを覚えています。
父は列車のわきを走りながら
わたしにキスを投げかけ、
母はただ見つめていました。
つらくて心は張り裂けそうでしたが、
そこを出なければならぬことは
分かっていました。

カードストーン神殿で結び固めを受け、福音の中で3人の子供を育てました。

イングランドに帰るたびに改宗したときのたくさんの思い出がよみがえり、祝福に感謝せずにはいられません。もしわたしに、あのような難しい選択をする勇氣も、御霊みたまに従う勇氣もなかったら、今わたしはどこにいますでしょう。

わたし自身やわたしのようなほかの人たちが福音を聞くことができるように道を整えてくれた教会内外の昔の開拓者に、わたしは永遠に感謝し続けるでしょう。前の時代の人たちはわたしに現代の開拓者となる機会と勇氣を与えてくれたのです。■

ロレイン・ギルモア(カナダ、オンタリオ州)

二つの町と深い^{あわ}憐れみ

アメリカ合衆国ミシシッピ州ナ
チェスの町は、イリノイ州ノー
ブーと同じように、ミシシッピ川を見
下ろす小高いがけの上にあります。
教会初期の時代、イングランドから
渡って来た多くの末日聖徒は、ニュー
オリンズから川を上りナチェスを通っ
てノーブーを目指しました。1844年
には、多くの末日聖徒を乗せてナチェ
スに停泊していた船に無法者の一団
が火をつけるという事件も起こって
います。

アメリカ合衆国国立公園局に就職
してナチェスに着いたとき、心配と不
安でいっぱいでした。心地よくなじん
でいたものをすべてユタ州に残し、こ
の新しい、見慣れない町に住むこと
になったのです。戸惑い、孤独でした。

研修初日、監督森林管理官はわた
しを公園内にある南北戦争時代の邸
宅に案内し、間もなくわたし自身がや
ることになるガイドツアーを実際に
やって見せてくれました。1階部分の
見学が終わった時点ですでに、ガイド
の細かな内容を全部覚えることがで
きずにいました。フランスロココ調を
模した家具からイギリスの陶器に至る
まで、南部の繁栄を示す華やかな邸
宅にわたしはすっかり圧倒されて
しまいました。でもこれからまだ

2階が残っているのです。焦りとホー
ムシックで落ち込んでいました。

大階段を上っているとき、ある町を
描いた油絵に目が留まりました。初
めて見る絵でしたが、どこか見慣れた
雰囲気のある絵でした。わたしの目
は、町の小高い丘の上に立つ大きな
建物に吸い寄せられました。そして
気づいたのは、町に沿って流れる川
が作り出す曲線でした。もしかして、
これはわたしが思っていた、その場所
ではないだろうか。

わたしは監督に、それはノーブーの
絵ではないかと尋ねました。彼は質問
に驚きながらも、確かにそのとおりで
と答えました。この絵は邸宅の後世
の所有者の一人が購入したものであ
ることがすぐに分かりました。おそらく
絵は19世紀半ばに描かれ、川の光景

が偶然にもナチェスの風景とよく似て
いたことから購入されたのでしょう。

迫害の最中、ナチェスを通じた
聖徒たちがやっとの思いでノーブーに
たどり着いたとき、深い安堵^{あんど}と感謝の
気持ちを抱いたに違いありません。
同じように、わたしもナチェスの邸宅
でノーブーの絵を見たときには元気づ
けられました。天の御父はわたしの
状況を御存じで、ホームシックや不
安、心配する気持ちを克服する力をわ
たしに与えてくださることをその絵は
気づかせてくれました。ノーブーの絵
は主の深い憐れみだったことを知りま
した。■

ティファニー・テラー・ボールズ
(アメリカ合衆国、イリノイ州)

大階段を上っているとき、
ある町を描いた1枚の油絵に
目が留まりました。
これはほんとうに、
わたしが思っていた場所の
風景ではないだろうか。



行動を開始する

ユタ州ソルトレーク・シティー地域
地域七十人

ボン・G・キーチ長老

ある森林消防降下隊の話をして
みましょう。森林消防降下隊とは、森林火災の現場にパラシュートで降下し、ほかの消防士が山麓側から消火活動を行う一方で、山頂側から消火に当たる勇敢な男女です。

大規模な森林火災が発生したときのことです。森林消防降下隊の精鋭チームが、飛行機での出動に先立ち、状況説明と指示を受けるために集まりました。通信指令員は、賢明で経験豊富な消防士でしたが、状況が目まぐるしく変化していて、はっきりとした指示を与えることができないことを降下隊に告げました。その代わりに、パラシュートで火災の上側の尾根に降下したら、無線で自分に連絡をくれるように降下隊に伝えました。そのときに消火活動を始めるために取るべき進路について指示を出すことにしたのです。

降下隊員たちは直ちに飛行機で出動し、燃え盛る火の上側にある尾根にパラシュートで降り、活動を始めるために集合しました。火災現場を見下ろすと、作業に取りかかるために進んで行けそうな道が5、6本見えました。

尾根で休んでいれば間違った方向に行くのを避けられて安全だと思えるかもしれませんが、前進するのを避けていることにもなります。

通信指令員との打ち合わせどおり、降下隊の隊長は携帯無線機を取り出し、周波数を合わせ、どの道を行けばよいか指示を受けようと通信指令員を呼びました。ところが、無線から聞こえてくるのは雑音ばかりで、通信指令員の声はまったく聞こえてきません。

通信指令員はほかの任務で忙しいのだろうと思い、降下隊員たちは10分待って再度試みることにしました。しかし、2度目に通信指令員を呼び出してみたときも、結果は同じでした。無線は通じず、雑音ばかりで、指示は聞こえてきません。

降下隊員たちは話し合いました。さっきと同様、消火活動に良さそうな場所に下りて行ける道が幾つか見えます。しかし、隊員たちは通信指令員から何も指示を受けていないことが気になりました。もし行動を開始して最善だと思われる道を下りて行った場合、実は通信指令員が望んでいる進路と反対の方向に移動していて、引き返さなければならなくなるのではないかと心配したのです。

そこで降下隊員たちは尾根で待機することにしました。15分後、再び通信指令員との通信を試みましたが、応答はありませんでした。隊員たちは背の荷物を降ろし、腰を下ろす場所を見つけました。30分が1時間になり、1時間が2時間になりました。定期的に通信指令員に連絡を試みましたが、しかしこれまでと同じように、返ってくるのは雑音だけでした。

降下隊員たちは昼食を取ることにしました。その後、依然として通信指令員と連絡が取れなかったため、荷物にもたれて仮眠しました。隊員たちはいらだちを覚えました。通信指令員がほんの少し自分たちに注意を向け、どの道に行くべきかを告げてくれさえすれば、喜んでその道を進み、消火活動を始めるつもりでした。しかし、通信指令員は降下隊のことなど忘れ去っているかのように思われました。恐らくほかの人たちのことで頭がいっぱいなのでしょう。降下隊員たちは、通信指令員の指示がないかぎり行動しないと決めていました。指示が与



えられるというのが、パラシュートで尾根に降下する前の約束だったのですから。

森林消防降下隊が尾根に着いてから7時間後、山のずっと下の方で消火活動に当たっていた別の隊の隊長が、疲れた体を引きずりながら山道を上って来て、降下隊を見つけました。隊長は^{あぜん}ととして、降下隊の隊長に近寄って言いました。「何を尾根でくつろいでいるんだ。ほんとうに君たちの助けが必要だったのに。火を封じ込めるための応援がなく、もう少しで大変なことになるところだったんだ。それなのに君たちはその間ずっと尾根で休んでいたというのか。」

降下隊の隊長は、自分たちの苦境について説明しました。降下隊は、通信指令員から指示があるという約束を受けていました。そこで、指示をもらおうと絶えず注意を向けていました。でも通信指令員は彼らのことをほうっておき、まったく応答してくれませんでした。確かに、火災現場に下りて行く道が幾つか見えました。しかし彼らは間違っただ道を行くことを恐れました。そういうわけで、約束されていた通信指令員からの指示を受けるまで待機することにしたのでした。

別の隊の隊長は手を伸ばして、降下隊員たちが使っていた小さな無線機を取りました。それから火災現場に続く道の一つを45メートルほど下って行き、立ち止まって無線で通信を試みました。通信指令員の声ははっきりと聞こえてきました。それから尾根の頂に戻ると、別の道を45メートルほど下って行きました。そして立ち止まり、通信指令員を呼びました。今度も通信指令員が直ちに

人生において最も有益で明確な指示を受けるのは、天の御父が助けと導きを与えてくださるのをただ待っているときではなく、わたしたちが全力を注いで熱心に務めに携わっているときです。



答しました。

別の隊の隊長は降下隊の所に戻り、無線機を降下隊の隊長に放り投げて言いました。「君たちは電波が届かない場所にいるんだ。行動を開始して道のどれかを下って行きさえすれば、通信指令員は容易に君たちの進路を修正して、応援が必要な地点に君たちを誘導できていただろう。それなのに君たちはここでのんびり過ごしていて、何の役にも立ってくれなかった。」

わたしたちは霊的な導きや指示を必要としているとき、しばしば森林消防降下隊員たちとまったく同じことを行おうとすることがあります。よく知らない場所において、幾つかの道が見えますが、どの道を行けばよいか確信がありません。天の御父から靈感と助けがあるという約束を受けていますが、いつでもすぐに与えられるわけではありません。いらだちを覚え

て、約束されている導き与えられるまで座って待つことにします。どうして天の通信指令員は道を教えてくださらないのだらうと思ひながら、ひたすら待ち続けるのです。

そのようにするとき、わたしたちは啓示の重要な原則をないがしろにしています。天の御父は、わたしたちが自分自身の英知と能力と経験を用いて最初の進路を決めることを期待しておられます。そして選んだ道を進んで行くとき、わたしたちは御父が備えておられる進路へと修正していただきやすい状態になるのです。しかし、尾根に腰を下ろし、荷物にもたれて、御父が指示を与えてくださるまでただ待っているなら、霊的な電波が届きにくい場所にとどまってしまう危険があります。

十二使徒定員会会長であるボイド・K・パッカー会長は、わたしたちに次のように教えています。

「わたしたちはすでに自分が得ている光と知識を用いて、問題を解決するように期待されています。自分の義務を知るために啓示を求めるべきではありません。すでに聖文で教えられているからです。また霊的なことであれ、この世的なことであれ、すでに得ている知識に取って代わる啓示を求めるべきではありません。啓示は知識を拡大するためにあるのです。わたしたちは人生を律する決まり、規則、規定に従って、ごく普通の一般的な方法で人生を歩まなければなりません。

規則や決まり、戒めは、強力な防護手段です。もしも進路を変えなさいという啓示が必要であるとすれば、道の途中で実際に進路を変える必要のある地点に差しかかったときに、その啓示が与えられるでしょう。」¹

人生において最も有益で明確な指示を受けるのは、天の御父が助けと導きを与えてくださるのをただ待っているときではなく、わたしたちが全力を注いで熱心に務めに携わっているときであることを証します。人生の中で主の導きを待ち望んでいる皆さん、重要な決定や問題について助けを必要としている皆さんに勧めます。祈りをもって注意深く自分自身の英知と手段を用いて、正しいと思う道を選んでください。その後、その道を熱心に歩んでください（教義と聖約 58:26 - 28 参照）。進路を修正するべき時が来たならば、御父はそこにいて皆さんを助け、導いてくださることでしょう。■

注

1. ボイド・K・パッカー「霊的な知識の探求」『リアホナ』2007年1月号, 16

小さな手段によって

ローレル・トイスチャー

自分は問題なくやっていると書いていました。伝道に出て、大学を卒業し、就職して、ついにアパートに引っ越して一人暮らしを始めました。日曜日には毎週教会に出席し、活動にも時々行っていました。友人は独身、既婚を問わずたくさんいましたし、子供のころに大好きだった読書をする時間も急に増えました。でも、そうしたすべてのことにもかかわらず、なおも道を見失っているように感じていました。

アルマ書第 37 章には、アルマが息子のヒラマンに与えた助言が記されています。41 節と 42 節で、アルマはリーハイの家族とリアホナについて語り、次のように説明しています。「彼らが怠けて、信仰を働かせることと熱意を示すことを忘れる」と、リアホナは働かず、「彼らの旅は進まなかった。そのために彼らは、荒れ野に長居することになってしまった。すなわち、彼らはまっすぐな道を進ま[なかった]のである。」これらの節を読んで、わたしは自分が前に進んでいないことに気づきました。生活の中で信仰を働かせていなければ、何かに対して熱意を示してもいけませんでした。目標に向かって努力するのをやめてしまっていました。何かが起こるのをただ待っていたのです。

変える必要のあることを一度にすべて書き出して表を作ったわけでは

ありません。むしろ、変化は少しずつ訪れました。まず、早起きをして走ったり、ほかの運動をしたりするようになりました。次に、昇進あるいは転職に役立ちそうな学校を探し始めました。そしてある学校を見つけ、今度は出願に必要な試験を受ける準備に時間を費やしました。聖文研究と祈りが以前よりも自分にとって大切なものとなり、毎日キリストの言葉をよく味わい、御霊を感じる時間を取るように努力しました。また、たとえ自分の時間を少し犠牲にすることになる場合でも、もっとワードに積極的に参加しようと特別な努力をしました。

こうして少しずつ生活を変え始めて以来、もっと幸せを感じる事ができています。自分が前に進んでいて、天の御父が様々な新しい課題を与えてくださっているのを感じます。そうした課題に、恐れや落胆ではなく希望をもって立ち向かうことができます。そして、わたしは次のことを学びました。わたしたちが努力をやめ、信仰を働かせてある方向に進むのをやめしまうと、天の御父はわたしたちが前に進むのを助けることができなくなります。わたしたちは目的地にたどり着かないのです。行く手に伸びている道が見えるように助けてくれた、人生における小さな変化にとっても感謝しています。■

そこが知りたい

**バプテスマを
受ける人が完全に
水に沈まなければ
ならないのは
なぜですか。**

出席したバプテスマ会で、最初は水に全身が沈まず、そのため2度行わなければならなかったことがあるかもしれません。バプテスマは救いの儀式ですから、厳密かつ正確に行うことが絶

対条件です。

バプテスマは象徴的な行為です。「死と埋葬、復活を象徴しており、水に沈めるという方法によってのみ行うことができ[る]」のです(Bible Dictionary, "Baptism"の項)。水に沈めることはイエス・キリストの死と復活を象徴しますが、同時に生まれながらの自分が死ぬことをも意味しています(ローマ6:3-6参照)。再び水の中から引き上げられることはイエス・キリストの復活を象徴し、イエスの聖約の弟子として再び生まれることを意味します。バプテスマフォントの傍らには二人の証人が立って、バプテスマを受ける人が完全に水に沈み、それが完全な再生を象徴していることを確認します。

わたしたちはバプテスマを受けるとき、ヨルダン川の水に沈められてバプテスマをお受けになった救い主の模範に倣います(マタイ3:13-17参照)。天の御父は、すべての子供たちが罪から清められて再び御父とともに生きることができるよう願っておられます。キリストが受けられたように水に沈めるバプテスマを受けるということは、御父の神聖な計画に欠かすことのできない部分なのです。■

うわさ話

広めないでください



わたしたちのスペース



わたしの好きな聖句

2 ニーファイ 2:1

この聖句は、疑問を感じたときや落胆したとき、難しい状況に追い込まれたときに、いつもわたしの指針となり、靈感の源となってきました。なぜ反対のものが必要なのか疑問に思ったときから、大好きな聖句になりました。なぜ矛盾がなければならぬのでしょうか。なぜ人生が喜びや幸せ、楽なこと、良いことばかりであってはいけないのでしょうか。なぜ悪が存在しなければならぬのでしょうか。

この聖句は、人生とその複雑さについて理解する助けになりました。この聖句のおかげで、人生の意味がよく分かるようになりました。反対のものが存在する理由を知り、それに感謝するべきだということが分かりました。それがなければ人は人生の本質やすばらしさは分からないのです。反対のものがなければ、どう愛したらよいのか、どうやって幸せになるのか、どうすれば成功するのか分からないこと

でしょう。わたしは人生を愛することを学びました。そして、あるがままの人生を受け入れ、主を信頼できるようになりました。主の知恵には疑問を挟む余地がないからです。

シーナ・P (フィリピン)

「すべての人に勧めます。主の灯台に頼ってください。霧がどれほど濃くても、夜がどれほど暗くても、風がどれほど強くても、主の灯台の明かりによって救えない船乗りはいないのです。人生の嵐に遭うわたしたちを主は呼んでおられます。目を向ければすぐに分かる、決して消えることのない光が、主の灯台から放たれているのです。」

トーマス・S・モンソン大管長
「閉会に当たり」
『リアホナ』2010年5月号, 113



体験談や写真、意見、感想を、
liahona@ldschurch.org までお寄せください。フルネームとワード名または支部名、ステーク名または地方部名、親の同意文を添えてください(電子メール可)。掲載される際、誌面の都合上、あるいは明瞭な表現にするために編集される場合があります。

清い思いを抱くには

汚れた思いがやって来てドアをたたいても、招き入れて居座らせてはいけません。誘惑から身を守る最大のチャンスは、悪い考えが浮かんだときです。種のうちにつぶしましょう。そうすれば絶対に育ちません。自分が悪い状態にあると感じたら、わたしは好きな賛美歌を歌い、打ち勝つ力がつくまでイエス様の姿を思い描くよう努めます。執拗に拒み続けければ、汚れた思いは去って行きます。

ホルヘ・G (ベネズエラ)



ギリシャのテッサロニキで撮った写真です。
リーハイの夢に出てくる暗黒の霧を思わせませ
(1 ニーファイ 8:22 - 24 参照)。

ケビン・K (ドイツ)

答えは 8 節にありました

ジョセフ・スミスはヤコブの手紙第1章5節の中に疑問の答えを見つけましたが、
わたしの疑問の答えは、何節か先にありました。

アンジェリカ・ネルソン

夜の11時、高校の友人たちと出かけていたわたしは、家に戻って寝室にいました。その夜のわたしの判断は最善のものではありませんでした。「でも、最悪の決断をしたわけではないし」とわたしは言い訳をしました。

イライラして宿題を手に取りました。あまりに疲れていたもので、さっさと片付けて寝てしまいたいと思いました。「聖文も読まなくちゃいけないけれど、今日はやめておこう」と思いました。

自分のやるべきことをすべて考え始めました。聖文を読むこと、早朝セミナーに出席すること、教会とミューチャルに出ること、良い成績を取ること、課外活動に参加すること、アルバイトをすること……。挙げればきりがありませんでした。

生活のすべてが大きな重荷に感じられました。特に、高校でただ一人の女性の末日聖徒であることの重圧は相当なものでした。高校で出会う友達にとってわたしはたった一人の女性の末日聖徒です。だから模範にならなければ、と何度も自分に言い聞かせました。でも、自分が間違っただ道を歩み始めていることは分かっていました。

「友達のように気楽にできたらなあ」と思いました。また、パーティーに行ったり悪い言葉を使ったりしても気がとがめなければいいのにとともに思いました。

でも、実際は気がとがめました。正しくないと分かっていることを選ぶと、体の具合が悪くなってしまうのです。でもどういいうわけか、わたしは間違っただことを次々に選んでいました。

宿題を終えたのはほとんど真夜中でした。5時間後に目覚まし時計が鳴ります。わたしは目を覚まし、重い足を引きずりながらセミナーに行くでしょう。そしてまた、高校生として一日を始めようとするのです。

だんだん分かってきました。すべてのルールに従うことはありません。教会に行くのも、セミナーに行くのも、ミューチャルに行くのもやめていいのです。家族が行っているからといって、わたしも行かなければならないというわけではありません。

そう考えると、自由になったような気がしました。わたしはベッドに潜り込みました。でも眠ろうとしたとき、聖文を読みなさいと強く促されるのを感じました。「読まないわ。もうわたしの一日は終わったのよ」とわたしは心の中で言いました。

するとまた、同じように促されるのを感じました。今度は「恐らくこれが最後の聖文学習でしょうけど」と思いました。

その年、セミナーでは新約聖書を学んでいました。わたしはヤコブの手紙第1章の自分で印を付けた箇所を開きました。ジョセフ・スミスが読

んで靈感を受けた章です。ジョセフ・スミスはこの章を読んで聖なる森に行き、心を注ぎ出して天の御父に祈ったのです。「何て皮肉なことかしら」と思いながら、わたしは読み始めました。

「あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、……」という5節はよく知っていました。しかし、その夜わたしの目を釘付けにしたのは8節でした。こう書いてありました。「そんな人間は、二心の者であって、そのすべての行動に安定がない。」はっとしました。そして、もう一度読んでみました。

わたしは二心の者だったのです。末日聖徒を自称していながら、それらしくない行動に走り始めていました。このまま行ったら、どんな道を選ぼうと、行動に安定も確信もなく、非常に不幸になるでしょう。

福音が真実かどうか知る必要がありました。福音とは毎朝5時に起きて学ぶ価値があるものなのかどうか知る必要があったのです。わたしは時々ばかにされることがあっても、できるかぎり正しい生活をしようと努めていました。そうすれば最高の幸せと喜びが得られるはずだからです。でも、ほんとうにそうなのでしょうか。

午前1時近くになっていましたが、わたしはベッドの傍らにひざまずき、天の御父に心を注ぎ出して祈りました。何が正しいのか、どの道に進めばい



いのか、わたしの手を取って、はっきりと分かるようにしてくださいとお願いしました。

すると、簡潔で明瞭な答えが心に浮かび、平安に満たされました。「あなたはすでに知っています。」そうです。わたしはすでに知っていたのです。

わたしは立ち上がると、電気を消して寝ました。4時間後に目覚まし時計が鳴りました。わたしは寝ぼけまなこでそれを消すと、1分後に起き上がったのでその日の準備を始めました。もちろん早朝セミナーの準備もです。

深夜にこのすばらしい経験をしてから長い年月がたちました。わたしの証は今でも成長しています。とても強いときもあれば、それほどでもないときもありますが。当時と違うのは、わたしは真理を知っていて、決して振り返らないということです。■



トーマス・S・
モンソン大管長

開拓者の 栄えある受け継ぎ

わたしたち一人一人は、初期の開拓者から多くのことを学べます。彼らは苦闘と心痛の中であって、常に確固とした勇氣と生ける神への揺るぎない信仰を持っていました。

開拓者の苦しみ

「歴史家は、ブリガム・ヤングが組織し導いた1847年の最初の開拓者団を、合衆国史上を飾る偉業の一つに数えています。大勢のモルモンの開拓者は病気、長旅、飢えに苦しんだ末に、世を去りました。幌馬車ほろばことそれを引く家畜を持っていなかったために、約2,000キロの行程を文字どおり歩いて、手車を押ししたり引いたりして大平原と山脈を越えて来た人々もいました。」¹

信仰を鼓舞する

「わたしたち一人一人は、初期の開拓者から多くのことを学べます。彼らは苦闘と心痛の中であって、常に確固とした勇氣と生ける神への揺るぎない信仰を持っていました。……手車を引いたり押ししたりして、あるいは徒歩で道なき道を旅した大勢の開拓者の中には、若人や子供もいました。同様に、今日、世界各地で開拓者としてこの業を推し進めている聖徒の中にも若人や子供がいます。初期の開拓者の話に心を打たれたことのない教会員は一人もいないのではないかと思います。すべての会員の益のために非常に多くを行ったこれらの開拓者は、信仰を鼓舞するという目標を心に

秘めていました。彼らは立派にその目標を達成しました。」²

困難に直面する

「ある開拓者が残した古びた日記にこう書かれています。『わたしたちは頭を垂れ、心からの感謝をもって、全能の神に謙遜けんそんに祈り、この地を神の民が住む地として御前にささげた。』

ある家の住人であった少年は、その粗末な家について次のような言葉を残しています。『わたしたちの家には、窓のようなものは何一つなく、ドアもなかった。それで母が古びた毛布を1枚つるした。それが最初の冬の間、我が家のドアになった。この18平米足らずの間がわたしたちの寝室であり客間であり、居間であり、台所であり、寝る場所であり、何もかもがここにあった。そんな家でみんながどうやって暮らせたのか分からない。わたしの愛する母は、たとえ豪華な宮殿を持つ女王でも、この横穴式の家ができて中に入ったときに自分が感じた誇らしい気持ちや、主の守りと祝福への喜びに勝る思いを感じることはできないだろうと話していた。』

昔の開拓者たちはこのような試し、苦しみ、悲しみを確固たる勇氣と生け

る神への不動の信仰によって乗り越えていきました。」³

今日の開拓者たち

「わたしたちは信じられないような苦難を堪え忍んできた開拓者たちを尊敬しています。彼らの名前を称賛し、彼らがささげた犠牲に思いを寄せています。

現代のわたしたちはどうでしょうか。わたしたちは開拓者のような経験をするのでしょうか。未来の世代の人々はわたしたちの努力や模範を感謝の気持ちをもって思い起こすようなことがあるでしょうか。……〔若人の〕皆さんは勇氣と信仰と慈愛と強固な意志において開拓者になることができます。

皆さんはお互いに強め合うことができます。目立たない人々に注意を向ける能力を持っています。皆さんが見るべき目を持ち、聞くべき耳を持ち、感じるべき心を持っていれば、同年代の人々に手を差し伸べて、助け出すことができます。」⁴

究極の開拓者

「聖文の歴史を最初から最後まで読み通すと、究極の開拓者、すなわち、イエス・キリストについて学ぶこ

上から——フォート・スミス・レシジョン・マシュー・ライア、ジョン・ルーク、ユタ州サンデー・ウイロ・クリクステクの歴史により撮影
「幌馬車」ニールバ・タイクト画、教義歴史博物館の歴史により撮影



とができます。イエスの降誕は古代の預言者たちによって預言されていました。この世の生涯を始められることは、一人の天使によって告げ知らされました。イエスの生涯と務めは世界を変えてきました。……

使徒行伝の中の一文が、主の務めを雄弁に物語っています。『このイエスは、神が共におられるので、よい働きをしながら……巡回されました。』（使徒 10：38）……

主の務め、人々の間で行われた奉仕の業、真理の教え、^{あわ}憐れみに満ちた行い、わたしたちに対する不変の愛について考えるとき、わたしたちは感謝の念で満たされ、心が熱くなります。世の救い主であるイエス・キリストは、神の御子であり、昔も今も、究極の開拓者です。人々に先立って行き、すべての人に従うべき道を示されたからです。わたしたちがこれからも主に従って歩むことができますように。』⁵ ■

注

1. 「人は皆開拓者です」『聖徒の道』1997年7月号, 109, 110。「わたしに従ってきなさい」『聖徒の道』1988年11月号, 2も参照
2. 「子供を教える」『リアホナ』2004年10月号, 4
3. *Ensign* 1988年7月号, 4。『聖徒の道』1988年11月号, 3も参照
4. 「人は皆開拓者です」『聖徒の道』1997年7月号, 110
5. 「霊の開拓者たちに導かれ」『リアホナ』2006年8月号, 7, 8

助け合うインドの人々

アジア地域シニア宣教師

チャールズ・キューイッシュ長老，
キャロル・キューイッシュ姉妹

2009年10月、インド南部が激しい嵐^{あらし}と台風により大打撃を受けた際、インド・ハイデラバード地方部およびバンガロール地方部の若い男性とヤングアダルトたちは、即座に洪水による被災者の救済を開始しました。

インド・ハイデラバード地方部のブラサダ・グデー会長は次のように述べました。「若い男性たちはすばらしい働きぶり、食糧や水を必要とする人々のもとに届けました。寄付された品物が州に送られて来ていましたが、政府はそれを200以上にも及ぶ避難所にいる何千人もの被災者に届けることができませんでした。会員たちの働きは際立っていました。モルモン・ヘルピングハンズズのベストを着て、食糧や水がすべての人に行き渡るよう効率よく作業を行いました。」

奉仕に加わった若い男性とヤングアダルトたちが、奉仕の喜びとやりがいについて語っています。■

右——「仲間に奉仕する機会をもらってとてもうれしかったです。すばらしい経験をし、多くのことを学びました。同時に、必要とされている食糧や品物を友人と一緒に梱包できて楽しかったです。奉仕するときに、救い主の愛と平安を感じました。」——ビーナス・アームストロング

「このプロジェクトに参加できてうれしかったです。とても困っている人々の役に立つことができ、大きな喜びを感じました。人々が祝福されるよう祈りました。」——ビジャリ・ナッカ

下——60人の教会員がカルナータカ州北部の避難キャンプを訪れました。彼らは教会員が集めた毛布や防水シート、衛生キットを届けました。一人の若い男性が興奮ぎみに次のように語りました。「この洪水救援活動の手伝いできてほんとうによかったです。日ごろから、だれかの役に立ちたい、だれかに奉仕したいと思っていたので、実際にできて感謝しました。洪水ですべてを失ってしまった人々に会えたとき、涙があふれました。自分の国の人々を助けることができたことは、大きな祝福でした。」



ある人にとってはごみ、だれかにとっては

宝物

表紙に金の文字が刻まれた1冊の本が、真理を求めるある人の宝物となりました。

アンドレジ・ボツェノフ

伝道地でのある暑い夏の日のことです。同僚とわたしは、新しい求道者を見つけたい一心でロシアのサンクトペテルブルクの道を歩き続けていました。その晩、わたしたちは家の近くである老人に会い、話し始めました。老人は福音に興味がなさそうでしたが、わたしたちは二人ともモルモン書を渡した方がいいと感じました。本の内側に、メッセージと証と連絡先を書きました。

その同じ晩、イリヤという名の若い男性が弟とともに出かけていました。もちろんわたしたちは知る由もありません。薄暗い地下道を歩いていると、イリヤは地面に落ちている本の表紙の文字が金色に光っているのに気づきました。かがんでよく見ると、本には金の文字で次のように浮き彫りされていました——『モルモン書——イエス・キリストのもう一つの証』。

イリヤは本を拾い上げて自宅に持って帰りました。

翌日、同僚とわたしはどうやって新しい求道者を見つけようかと考えていました。様々な思いが頭をよぎりました。「新しい求道者を見つけようとこんなに頑張っているのに、なぜ結果が伴わないのだろう。ひょっとすると、やり方を変える必要があるのかもしれない。」

程なく電話が鳴りました。受話器を取ると、電話の向こうの声がこのように尋ねました。「宣教師さんですか。あなたが落とした本を地下鉄の通路で拾いました。お返ししたいのですが。」

わたしはすぐに聖典が置いてある棚を見ました。「地下鉄に聖典を忘れてはいないと思うのですが」と答えました。「やはり、わたしのモルモン書ではないようです。でもどうぞお持ちになって読んでみてください。」

若い男性は、名前をイリヤといい、ロシアのオルスク出身で仕事のために

サンクトペテルブルクに来ているのだと言いました。

「この本とあなたの教会についてもっと知りたいのですが」とイリヤは言いました。「お会いできますか。」

わたしは興奮のあまり飛び上がってしまいました。求道者になる見込みのある人から、教会について詳しく学ぶために会いたいという電話はそうかかってくるものではありません。

「もちろんお会いできますとも！」わたしは喜びながら答えました。

イリヤと会うと、彼はわたしたちの話に注意深く耳を傾け、質問しました。福音を素直に受け入れるイリヤの姿勢を見てわたしたちはうれしくなりました。

あるとき、レッスンの途中にわたしはイリヤのモルモン書を開きました。最初のページをめくると、見慣れた筆跡が目に入りました。何と、わたしの字です。それはいつかあの老人に渡したモルモン書であることに気づきました。恐らく老人は本を捨て、それを

イリヤが見つけたのでしょう。同僚とわたしが、そのときには理由が分かりませんでした。モルモン書をあの老人に渡そうと思ったことに心から感謝しました。

間もなくイリヤは教会に加わりました。イリヤは福音のメッセージを親戚や友人にも熱心に伝え始めました。

天の御父は、人がいつ御自分の言葉を受け入れる用意ができるかを御存じであることを学びました。宣教師や御自分の教会の会員が福音を伝えようとする際に天の御父が求めておられるのは、ただ戒めを守り、御心に従うことだけです。この場合では、神はモルモン書を最初に受け取った人がその価値を見過ごしても、イリヤは見過ごさないことを御存じだったのです(1ニーファイ19:7参照)。■



とにかく 泳ぎ続ける

12歳のモニカ・サイリは泳ぐのが大好きです。ニュージーランドの優秀なジュニアの水泳選手の一人です。ひよっとすると人魚なのでしょうか。

もちろん、モニカは人魚ではありません。うまく泳げる理由はただ一つありません。よく練習するからです。

月曜日と水曜日、金曜日の朝5時から2時間プールで練習します。火曜日、木曜日、土曜日の放課後には競技場かクロスカントリーコースを走ります。

いちばん苦手な練習は、片方の手だけを使い、あごを上げて泳ぐバタフライです。100メートルごとに腕を変えます。「肩が燃えるように熱くなるんです」とモニカは話します。

しかし、苦しいからといってあきらめなくても人生はうまくいかないことをモニカは学びました。勤勉さこそがモニカを強くしてきました。

勤勉さと困難

勤勉であることでモニカは常に助けられてきました。10歳のころにメダルをもらい始めました。11歳では国内のバタフライ競技で同年齢の上位

10人に入っていました。12歳ではナショナルチームの水泳強化合宿メンバーに選ばれ、サモアで行われたオセアニア大会にも選出されてほかの国の選手たちと競いました。

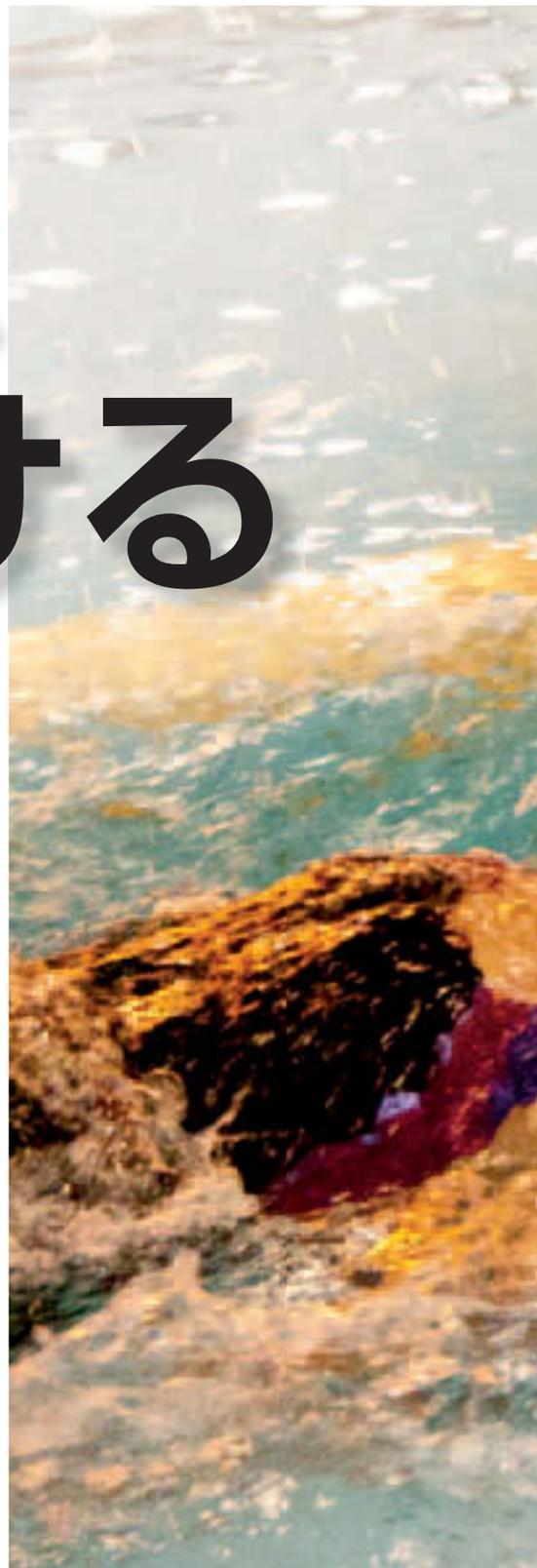
モニカはこのように語ります。「父がいつも言っていました。『成功は勤勉さと引き換えにやって来る。棚から落ちては来ないのだよ。』」

モニカは水泳にそれが当てはまることを学びました。また、人生についてもそうです。モニカの11歳の誕生日の数か月後に突然お父さんが亡くなったときに学んだことです。

「父とはとても仲良しでした」とモニカは語ります。「水泳を始めたのも父がきっかけでしたし、練習や大会に連れて行ってくれたのも父です。父が亡くなって、話し相手を失ったように感じました。」

決してあきらめない

お父さんを亡くしたことは、モニカにとってつらい出来事でした。しかし、厳しい練習にも音を上げないモニカは、お父さんが亡くなったときにも天の御父を信じる信仰を失いませんでした。





モニカ・サイリは、
苦しいからといってあきらめても
人生はうまくいかないことを
学びました。





**決して
あきらめない**
「だれにとつても、つらい時があるでしょう。しかし決して

希望を捨てないでください。あきらめないでください。雲間からさし込む光を捕らえてください。」

ゴードン・B・ヒンクレイ大管長
(1910 - 2008年)
『絶えず真理を求める』
『聖徒の道』1986年2月号, 3

*お母さんの助けのおかげで、
モニカはつらい時期を
乗り越えることができました。
その中で、大変なことがあっても
幸せになれることを学びました。*



「父はわたしの模範でした。父は、福音に従って生きるにはどうしたらよいかを教えてくださいました。」

父親の死以来、モニカは寝る前に聖文を勉強するようになりました。「習慣づけようと頑張っています」とモニカは言います。学校では自分の信条を擁護します。「教会についていろいろな質問をされます。」また、ワードの音楽ディレクターとして奉仕しています。

「会員であることは祝福です。ストレスが大きいときには慰めを受けられます。」

最後には、さらに強くなる

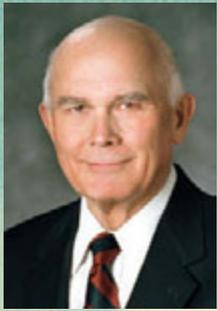
モニカは今でもお父さんがいないことを寂しく思います。しかし、お母さんや家族の支えのおかげで頑張れます。

生活はとても忙しく、ピアノやバイオリンのレッスン、生徒会、水泳、「成長するわたし」、^{せいさん}聖餐会の音楽の指揮などをこなしています。

どこまで水泳が上達するのか、あるいはいつまで水泳を続けるのかは、今はまだ分かりません。しかし、福音について言えば、最後まで続ける決心がついています。

「人生には時々厳しい時があります。でも、難しいことをすると人は強くなります。とにかく泳ぎ続けなければならないのです」とモニカは語ります。■

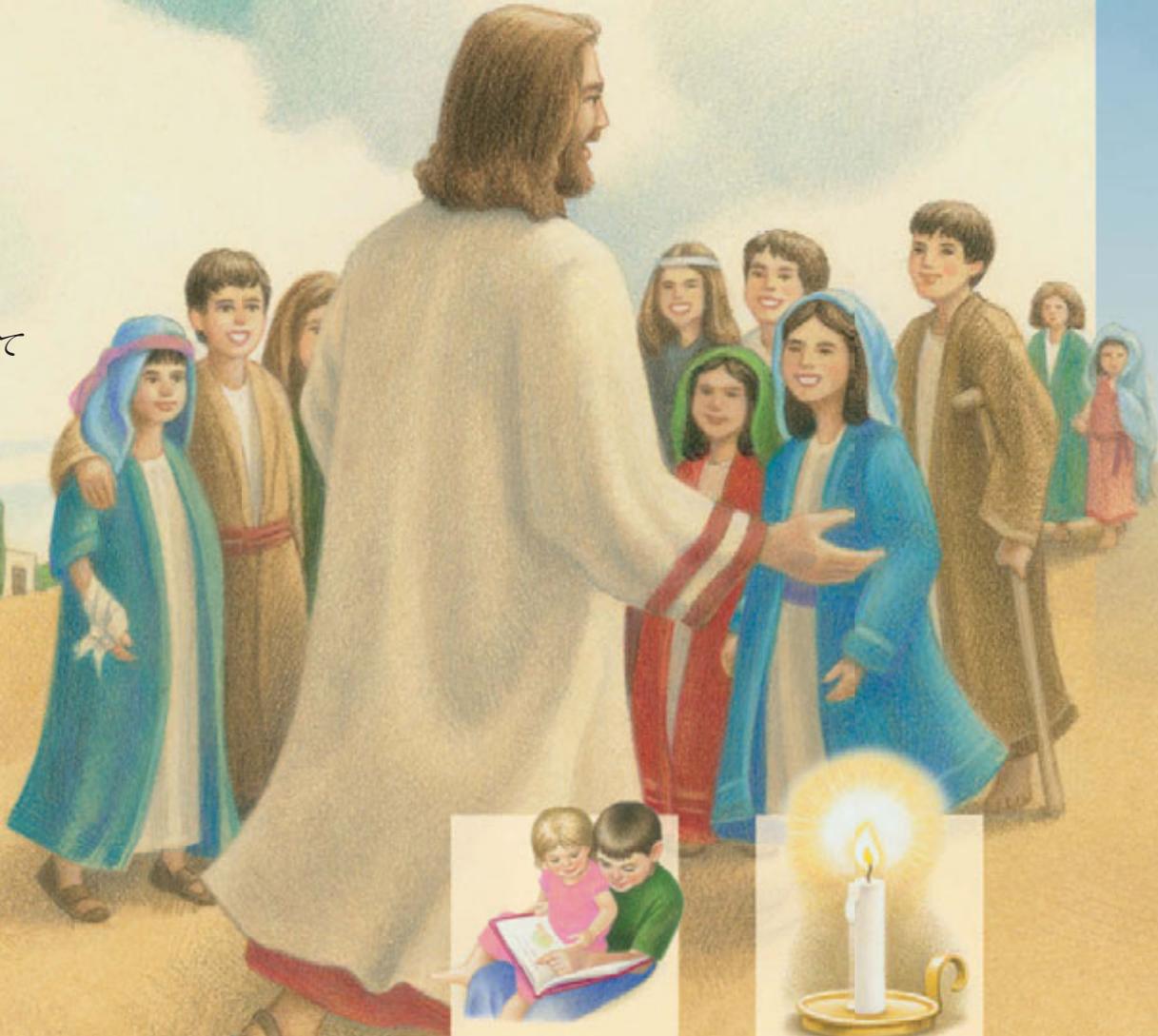
この物語に関する写真をもっと見るには、liahona.lds.org にアクセスしてください。



ほかの人のために ほうしすることは なぜ 大切なのでしょうか

「無私の奉仕」『リアホナ』2009年5月号, 93-96から

じゅうに
十二しと
ていじんかい
でいん会の
ダリン・H・
オックス
ちょうろうは
このテーマについて
つぎのように
はな
話しています。



まいしゅう
毎週 せいさんを
うける ときに、わ
たしたちは しゅと
ひと
びとへの ほうし
を けつじます。

すくいぬしは、むし
の ほうしに ごじ
しんの すべてを
ささげられました。
そして、わたしたち
ひとりひとりが 自分
の うえきを すてて
ひと
びとに つかえる
ことで、しゅに し
たがうように 教え
られました。



なに
何かを える た
めでは なく、あ
たえる ために
こうどうし、ほう
しする ときに、
わたしたちは
もっと しあわせ
になり、よい
きもちに みたさ
れます。



イエスは ごじし
ひと
んに したがる人
に たいして、と
うとく、とくべつ
な たみとなる
ように、そして
よの ひと
びとを
てらす 光となる
ように 教えられ
ました。



だいかんちょうかいだいいち こもん
大管長会第一顧問
ヘンリー・B・アイリング^{かんちょう}管長

救助の手を 差しのべる

愛に満ちた天のお父様は、ご自分ののれいの子供たち一人一人がみもとに帰ることを望んでおられます。安全にまた視界をささげられることなく旅ができるように、天のお父様はおん子イエス・キリストをつかわされました。また、天のお父様のもとに通じる道の所々に案内人と救助者を置かれました。両親、きょうだい、祖父母、おじやおばは、力強い導き手となり、救助者となります。初等協会の先生も子供たちを導く助けをしています。CTRのモットーを考え出したのは、若くして中央初等協会管理会にめされた一人の女性でした。彼女は、90才くらいまでワードの初等協会ですと教えていました。幼い子供たちは彼女から愛されると感じる事ができました。中でも、彼女の模範から聖霊を感じる



じ、聖霊の導きに気づくことを学びました。

ある日の午後、妻は読み方を教えてくれる女性の家に長男を送って行きました。仕事からの帰りにわたしがむすこをむかえに行くことにしていました。

レッスンは予定していた時刻よりも早く終わりました。長男は帰り道が分かると思っていたので、歩いて帰ることにしました。800メートルほど歩いたところで、辺りが暗くなってきました。けれども、家まではまだかなりのきよりがありました。

横を通り過ぎて行く車のヘッドライトがなみだでかすんで見えました。助けが必要なることに気づきました。そして、道を外れて、ひざまずいている場所を見つけました。

やがて、しげみの向こうから、こちらに向かって来る人の声が聞こえ



みちび
CTRの導き

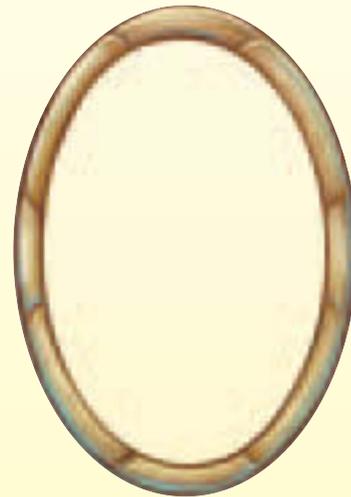
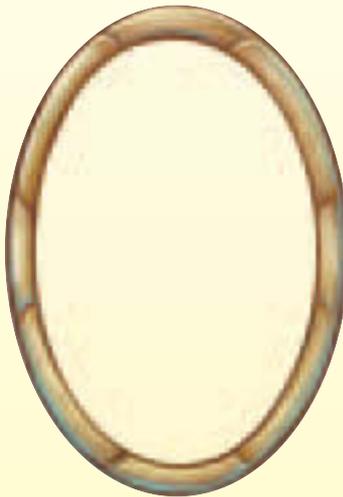
アイリング管長はCTRのモットーを作った初等協会の先生について話しました。CTRとは「正義を選べ」という意味です。このモットーは子供たちが良い選択をするためにこれまで長い間ずっと助けとなってきました。上にあるCTRの指輪は左からドイツ語、フィンランド語、英語、フランス語、イタリア語のものです。

みちび
あなたを導いてくれるのはだれですか

天のお父様はご自分の子供たちがみもとへ帰れるように地上に案内人と救助者を置かれたとアイリング管長は言っています。あなたを導くために天のお父様があたえられた人たちの絵をかきましょう。また、その中の一人に、あなたを助けるためにしてくれたことについて感謝の手紙を書くといいでしょう。

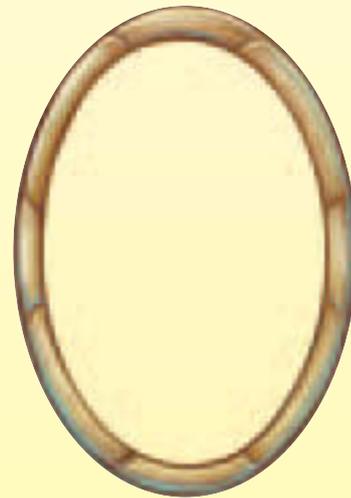
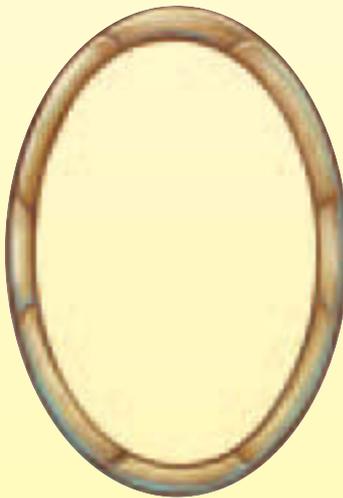
きょうかい し どうしゃ
教会の指導者や
教会員

おや かぞく
親や家族



せんせい
先生

おや かぞく
親や家族



した。二人の若者が泣き声に気づきました。二人はむすこに近づいて言いました。「どうしたの。」むすこは泣きながら、迷子になったこと、そして家に帰りたいたことを伝えました。二人は家の電話番号か住所が分かるかたずねました。むすこは知りませんでした。それから、近くの自分たちの家に連れて行きました。そして電話帳から我が家の名字を見つけてくれました。

わたしは電話を受けると、むすこの帰り道に、神が親切な人々を置かれたことに感謝しながら、急いで助けに向かいました。迷子になったとき助けが来るという信仰をもっているようむすこが教えられていたことに、わたしはいつも感謝してきました。

主はみなさんと神のすべての子供たちを愛しておられることをあかしします。このイエス・キリストのまことの教会においてあたえられる靈感にもとづく指示に従うならば、天のお父様と救い主のおられる家に安全に送り届けられるでしょう。■

この話は2010年4月の総大会での説教をもとに書かれました。

今月の しょとうきょうかいの テーマについて
 もっと 学ぶために この レッスンと かつどうを つかうと いいでしょう。

しんでんは かみの みやです

「せいなる しんでんに おいて
 えられる しんせいな ぎしきと せいやくは、
 わたしたちが こじんとして
 かみの みもとに 帰り、

また かぞくとして えいえんに
 一つと なることを かのうに するのです。」
 (家族——世界への宣言)第3段落

ジョアン・チャイルド、
 クリスティーナ・フランコ

しんでんの うつくしさを 見
 たとき どのように かん
 じますか。「しんでんは き
 れいだな。いつか 行きたいな」という
 ことばが 頭に うかんで くるでしょ
 うか。

「しんでんに 行きたいな」¹という
 きよくを 歌う とき 子どもたちは
 いつか しんでんに 行きたいと 思
 うことでしょう。でも、どうして しん
 でんが あるのか、しんでんで 何が
 おこなわれているか、また、どうすれ
 ば しんでんの中に入るこ
 ができるかは 分か
 っていない。しん
 でんの ことについて もっと よく
 知りましょ

どうして しんでんが あるのですか。

しゅは つぎの ように 言われま
 した。「いと 高き かたが すめる
 ように、わたしの 名の ために
 一つの 家を たてなさい。」
 (教義と聖約 124:27) しゅ

の みたまは しんでんに
 とどまります。しんでん
 は かみの 家です。
 そこで わたしたち
 は 天の お父さま

と せいやく(または やくそく)を
 します。せいやくを まもれば 天の
 お父さまと また いっしょに くらす
 ことが できます。

しんでんで 何が 行われているので
 すか。

天の お父さまの もとへ 帰
 ためには バプテスマを うけなけれ
 ばなりません。しかし、バプテスマを
 うけずに しんで しまった 天の
 お父さまの 子どもたちが たくさん
 います。12才に なったら、そのような
 人たちの ために しんでんで バプ
 テスマを うけて その 人たちが
 同じ しゅくふくを うけられるように
 することが できます。

しんでんでは また、エンダウメント
 という おくりものを うけとります。
 この おくりものは いましめを まも
 れば えいえんの いのちを えるこ
 とができる という やくそくです。

しんでんでは おっと と つまが
 この よでの また えいえんの か
 ぞくとして むすびかためられます。
 つまり、ふさわしく あれば、二人の

けっこんは えいえんに つづき、えい
 えんの かぞくとして 子どもたちと
 いっしょに いられる ということです。

しんでんで 行われることの すべ
 ては かみさまの しんけん と けんの
 うによって 行われます。

いつか しんでんの中に入るには
 どのような じゅんびを すればよいで
 しょうか。

しんでんの中に入るためには
 12才いじょうで なければなりません。
 また、バプテスマを うけて かくにん
 されていなければなりません。そして
 かみさまと その おんこ イエス・キリ
 ストを しんじていなければなりません。
 また、まつじつせいとイエス・キリスト
 教会を しんじ、天の お父さまの
 いましめを まもって 生活しなけれ
 ばなりません。ビショップ または し
 ぶ会長と めんせつをし、しんでんに
 入るに ふさわしいと かくにんされる
 と しんでんすいせんじょうを もらうこ
 とができます。しんでんに 入るときは
 その すいせんじょうを 見せます。す
 いせんじょうを もっている とい
 うことは しんでんに 入るに ふさわしい
 生活を していることにな
 ります。

しんでんに 行くための 道を 歩
 きつづけると、みなさんは「きよき
 みたまの 声」を聞き、いのるための
 そなえが できます。しんでんは「せ
 いなる かみの 家」であり「うる
 わしの みや」なのです。² ■

注

1. 歌——「神殿に行きたい
 な」『子供の歌集』99
2. 歌——「神殿に行きたい
 な」99



かつどう

二つの絵を見てください。どちらのかぞくがしんでんのオープンハウスに行くじゅんびが
 できているでしょうか。(1)1まい目の絵の中でかぞくがしんでんに行くためのじゅんびのた
 すけになっているものを丸でかこみましょう。(2)もう一つの絵の中でかぞくがしんでんに
 行くためにかえなければならないところを丸でかこみましょう。(3)大きくなってしんでんに
 行くのためにじゅんびできることを二つ考えましょう。そしてそれを絵の下に書きましょう。



わたしは しんでんに 行く
 じゅんびをするために _____。

わたしは しんでんに 行く
 じゅんびをするために _____。

タヒチの かいたくしゃ きねん日

マリア・T・ムーディー

タヒチ・パペエステーキの子どもたちは かいたくしゃが大好きです。ステーキのかいたくしゃ きねん日の かつどうにお父さんと お母さんと いっしょにさんかし、1847年に ソルトレークぼんちにむかって たびをした かいたくしゃをおいおいしました。

それぞれのワードが かいたくしゃの馬車を 作りました。じてんしゃのしゃりんをつかったものや、ダンボールでできた馬をつかったものもありました。子どもたちは れつになつて こうしんしたり、かいたくしゃゲームをしたり、おいしい 食べものを 食べたりしました。

かいたくしゃ きねん日は ふくいんをうけ入れ、ほかの 人たちに それをおし 教える せかい中の 人びとのことを おも 思いおこす とくべつな日 でもあります。そのような 人びとも みんな かいたくしゃなのです。■



この かぞくは おそろいのがらの ぼうし、エプロン、サスペンダーを みに つけていました。

この 男の子たちは 自分たちの ワードの ほろ馬車を 引いて こうしんしました。



スカートと かいたくしゃの ぼうしを みに つけていた 女の子も いました。

ぼうしと バンダナを みに つけていた 男の子も いました。



わたしたちのページ



5才の マルシア・V は ペルーに すんでい ます。お父さんの ラウ ルと お母さんの バト リシアは マルシアを と ても よい 子だと ほめています。マルシア が いるので かぞくは しあわせな 気もちに なります。マルシアは しょとうきょうかいの CTRの クラスに 通って いて、CTRの ゆびわを もって います。『リアホナ』に のつて いる 絵に 色を めるの が すきです。すきな さんびか は「わたしは かみの こ」です。

「わたしたちの ページ」に 絵や しゃしん、けいけんだんや あかしを おく りたい人は、けんめいの とこ ろに「Our Page」(わたしたちの ページ)と 書いて、電子メールで おくって くだ さい。おくり先は liahona@ldschurch.orgです。

応募の際には、必ず子供の姓名、性別、年齢、それに親の名前、ステーク/地方部、ワード/支部名を明記し、子供の写真や投稿原稿を掲載する許可書(電子メールで可)を添えてください。お送りいただいた原稿は、紙面の都合上、あるいは明瞭にするために、編集することがあります。



ギリエルモ・T, 8才 (ベネズエラ)



サラ・D, 6才 (ブラジル)

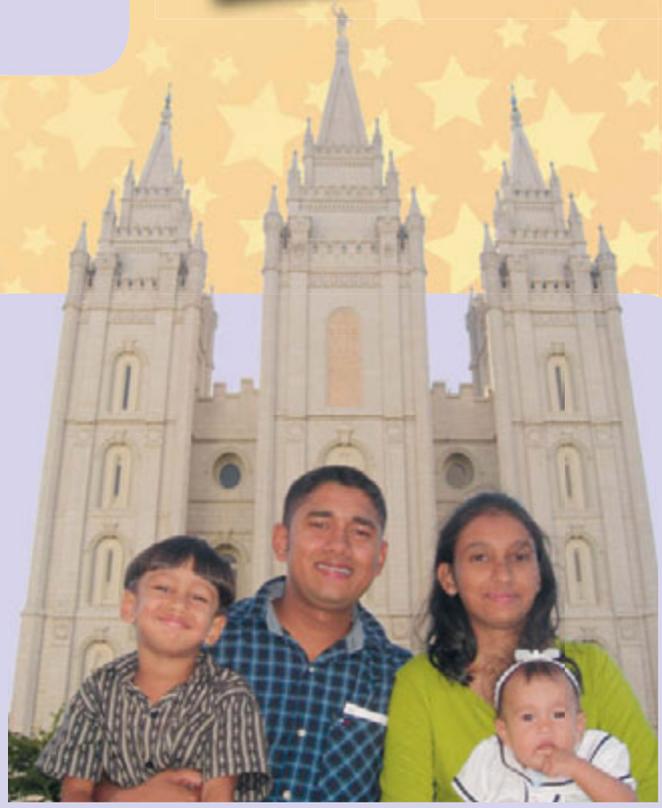


ハイール・O, 10才 (ペルー)

えいえんのかぞく

2008ねん8がつ23にちに ぼくの かぞくは ユタしゅうの ソルトレークしんでん で かぞくのむすびかためを うけました。ゆめが ほんとうに なったのです。ちきゅうを ぐるっと はんぶんくらい まわる ながくて たいくつな たびでしたが、そんなことが もんだいに ならないくらい すばらしいことが ありました。ユタしゅうに ついたときは よるでしたが、さいしょに しんでんを みに いきました。くらい なかで たくさんの ひかりに たらされた しんでんは とても きれいでした。それから ぶつかごに ぼくたちは むすびかための ぎしきを うけました。しんでん で こどもの せわをして いる しまいたちが、いもうとと ぼくが しろいふくに きがえるのを てつだって くれました。それから おとうさんたちの とこ ろへ いきました。まるで イエスさまに あいに いくような きもちでした。むすびかための ぎしきを うける ことが できて、ぼくたちかぞくは とても しあわせでした。いまでは ぼくは かぞくと えいえんに すむことが できると しています。

ディーン・F, 5才 (スリランカ)



めし

コリーン・ピュー

開拓者ジョン・カーリングにまつわる実話をもとに書かれました。

「アイザック、アイザック。お父さんが牛の世話を手伝ってほしいって言っているわよ」と言うお母さんの声が聞こえてきました。

アイザックが頭をあげて窓の外を見ると、確かに日がのぼり始めていて、家の手伝いをする時間です。ベッドからもぞもぞとはい出して、シャツに手をのばすと、牛の鳴き声が聞こえてきました。

台所のドアから外に出てみると、お父さんが年老いた牛のトーラスを引いて門の所を通りぬけて行くところでした。

「こんなに早くどこに行くの、お父さん？」と、アイザックがたずねました。

「へいの所さ。トーラスがじっとしているように、えさを入れたおけをしっかりとおさえてほしいんだ。」

「一体、朝っぱらから何をしようっていうんだい」とでも言いたげに、牛は大きな鳴き声を上げました。それでもアイザックがトーラスの鼻の下でおけをおさえていると、落ち着いてきたトーラスは、長い舌を使ってえさを食べ始めました。牛がえさを食べている間、お父さんは牛を止めておくためのロープをさくにしっかりと結びつけました。

お母さんが玄関の戸口から出て来ると、「エミリーン、これから大事な仕事をするんでね、机の上から大工仕事用の太い鉛筆を持って来てくれないか」とお父さんがたのみました。

お母さんが鉛筆を持って出て来ると、お父さんは地面に何枚かの板をしきました。そして、トーラスをじっくりと観察した後、表面がすべすべした黄色い板の上にスケッチを始めたのです。

「お父さん、何をしているの？」とアイザックがたずねました。

「フォードム兄弟とわたしは、神殿を建てるのに大切な仕事を任されているんだ。パプテスマフォントを支える12頭の牛の像を造る手伝いをするこ

「わたしの名のために
まことにこの場所に一つの家を建てて、
わたしから命じられるすべてのことに
忠実であることを身をもって示し……なさい。」
(教義と聖約 124:55)

とになっていてね。お父さんは今その元になる型をえがいているんだけど、トーラスがそのモデルっていうわけさ」と、お父さんが説明してくれました。

自分の名前を聞きつけたトーラスは、ちょっと頭をあげましたが、再びえさを食べ始めました。

お父さんが太く長い線でスケッチしていくのをじっと見ていたアイザックは、「トーラスらしくなってきたね、でもどうしてトーラスをモデルに選んだの」と聞きました。

「トーラスはたくましいし、今まで見た牛の中で最高だと思うんだ。トーラスの格好を見てごらんよ。自分が大切な存在だと分かっているみたいじゃないか。それにトーラスは言うことをよく聞くしね。」

「お父さんはすごく大切なめしを受けているんだね、そうでしょ？」

「ああ、そうだよ。このめしを頂いて、お父さんはすごく感謝しているんだ。」

アイザックがトーラスの首をなでると、そのたくましい筋肉にふれることができました。「おまえにとっても、すごく名誉なことだね」と、アイザックは耳もとでささやきました。

アイザックは家の手伝いを手早く済ませました。いつもより早く24個の木製の洗濯ばさみも作り終えました。用事を済ませれば、自分のしたいことができること分かっていたからです。

今日は絵をかこうと思っていました。暖炉にくべた木の燃えかすのできた炭を使って、暖炉のかべに絵をかいてよいと、両親から許可をもらっていたのです。炭は簡単に洗い流せるうえに、太い線も細い線も自在にえがくことができました。

アイザックはトーラスの絵をかきながら、お父さんのことやノーブーに建設される美しい神殿のことを考えていました。アイザックがトーラスのようにたくましく従順であれば、主は、お父さんのように神殿で働くめしをいつの日かアイザックにもあたえてくださることでしょう。■





「**オ**能^{のう}を^わか^あち^あい^まし^よう。
う。お^あし^まな^くわ^かち^あい^まし^よう。
あ^あら、自^じ分^{ぶん}の^もの^にで^きま^す。」

トーマス・S・モンソン^{だいあんしょう}大^{だい}管^{かん}長^{ちやう}
「扶^{たすけ}助^{すけ}協^{けい}会^{かい}の^{せいしん}精^{せい}神^{しん}」
「聖^{せい}徒^たの^{みち}道^{みち}」1992年7月号, 111

トーマス・モンソン



えいえんに いっしょに いられるように

レベッカ・コーニッシュ・タリー

じつわを もとに 書かれました。

「かれは せんぞの 心を しそんに むけさせ、
しそんの 心を その せんぞに むけさせる。」(3 ニーフアイ 25:6)

1. 家の 近くの しんでんが ほうけんされる 前に、
オリビアは、しんでん の オープンハウスに
いっしょに 行きま しょうと おばあちゃん
を さそいました。



オリビアは 12才さいになったら ここここに来て、
なくななった人ひとに かわって
バプテスマを うけるのね。

とっても 楽たのしみだわ。

2.



わたしこそ
さそってくれて ありがとう。
おじいちゃんが
なくなってから ちょっぴり
さびしかったのよ。

わたしも
おじいちゃんが
いなくなって
さびしいわ。

しんでんに 入はいったら、
お父ちちさんも お母ははさんも 白しろい ふくを きるって
お母ははさんが 言いった。

3.



そのとおりよ。

4.

むすびかための ぎしきは
 この へやで 行おこなわれます。
 この かがみの 前まへに立たって、
 むかい がわを 見みてください。
 何なにが 見みえますか。



どこまでも
 おわりが ないみたいね。

わたしたちの かぞくみたい。でしょ？
 おじいちゃんにも いつか また 会あえるのよね。

そのとおりよ。
 いましめを まもって 生せい活かつしていれば、
 おじいちゃんや ほかの すべての かぞくと
 また いっしょに いられるようにななるのよ。
 だって、わたしたちは しんでんで
 むすびかためを うけているからね。



5. オリビアと おばあちゃんは、あんないしてくる
 人ひとの 後あとに ついて 日ひのさかえのへやに入はいりました。

この へやに 入はいったときの かんじ
 わたし 大だいすき。
 しあわせな 気きもちが する。

おばあちゃんもよ。

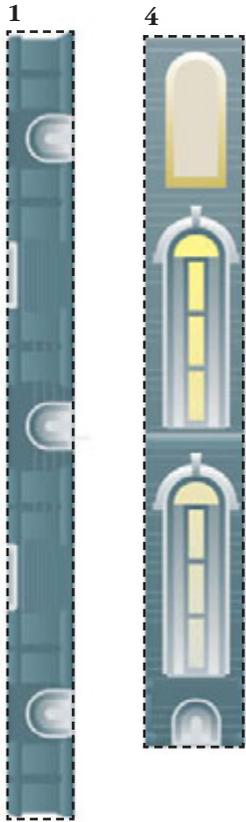


6.

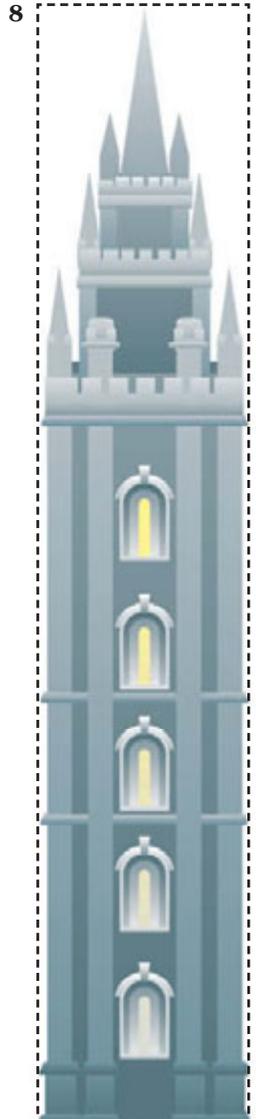
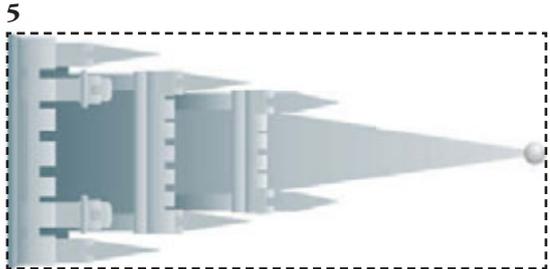
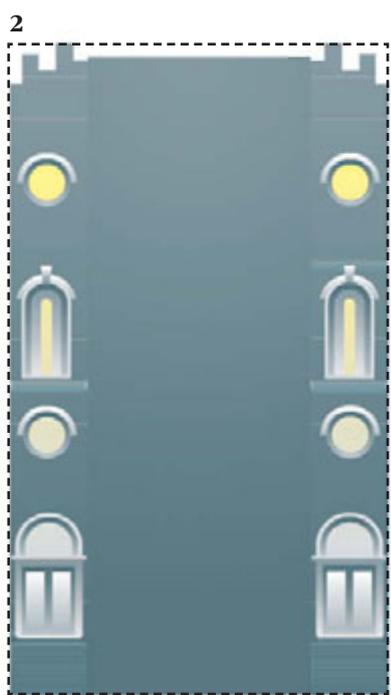
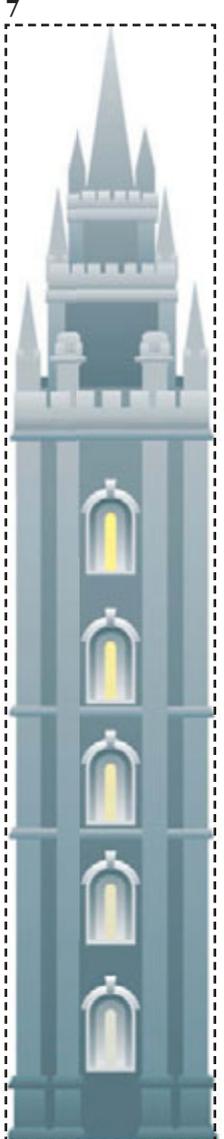
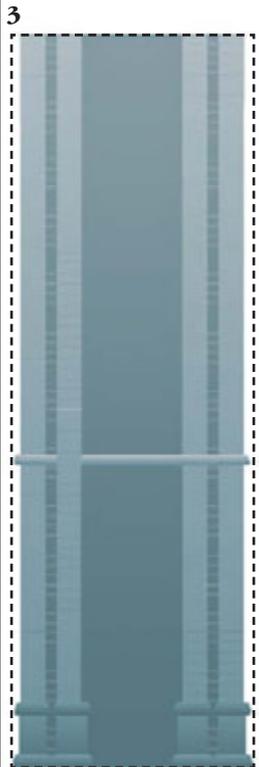
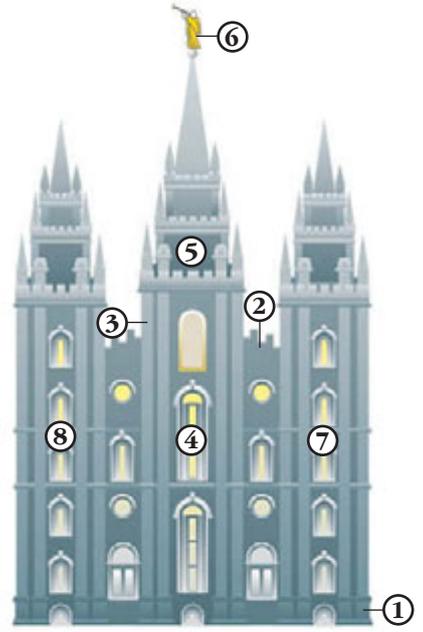
おばあちゃん、わたし しんでんが 大だいすき。
 いつか 大おおきくなったら また ここに 来きて、
 けっこんしたいな。
 おじいちゃんも ほかの かぞくも
 みんな いつまでも いっしょに いられるなんて
 わたし とっても うれしい。

ほんとうに その とおりね。
 しんでんにも オープンハウスにも
 そして オリビアにも
 とっても かんしゃしているわ。



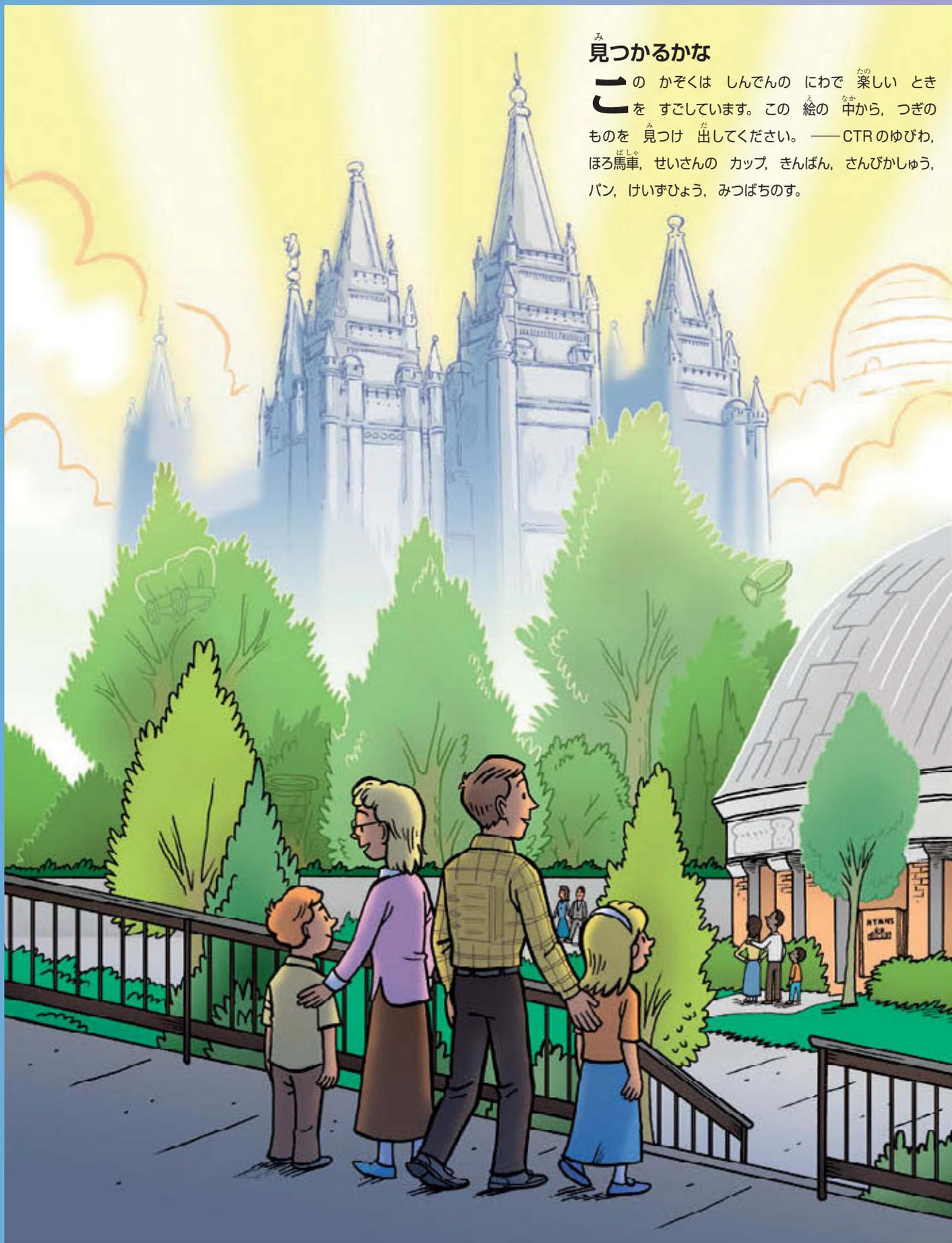


しんでんを たてよう
はじめて ソルトレークほんちに やって来た ^{ひと}人たちは、
 40年かかって ソルトレークしんでんを かんせいさせ
 ました。大人に ^{おとな}手つだってもらって しんでんの 絵の パーツ
 を 切りとり、それぞれを ^{くみあ}組み合わせて しんでんを つく
 みましょう。



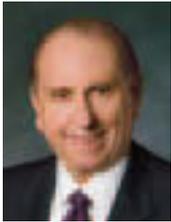
み
見つかるかな

一 の かぞくは しんでの にわで たの 楽しい とき
 二 を すごしています。この 絵の なかから、 つぎの
 三 のを みつけ だして ください。 — CTRのゆびわ、
 ほろ馬車、せいさんの カップ、 きんぱん、 さんびかしゅう、
 パン、 けいすひょう、 みつばちのす。



たいかい
大会スポットライトカード

このカードを切り取って、総大会で学んだことを思い出すために使ってください。



「若い友人の皆さん、常に神殿を視野に入れておきましょう。神殿のドアを通して、神聖で永遠の祝福を受ける妨げとなることを一切してはなりません。」

トーマス・S・モンソン大管長



「クリスチャンであること、キリストの眞の弟子として生活することはすばらしいことです。」

十二使徒定員会 L・トム・ペリー長老



「一見ささいな選択を通して、主は皆さんが望む幸福へと導いてくださいます。皆さんの選択を通して、主は無数の人を祝福することがおできになります。」

大管長会第一顧問 ヘンリー・B・アイリング管長



「心からの親切と奉仕を通して、それを受ける側の人とわたしたちの間に友情が生まれます。彼らはこのような友情から、わたしたちが福音に献身していることを知り、わたしたちについてもっと知りたいと望むようになります。」

十二使徒定員会 M・ラッセル・バラード長老



「御霊の導きを実行するための行いを何もせずに一日を終えることのないようにしてください。」

大管長会第二顧問 ディーター・F・ウクトドルフ管長



「天の御父を見ることはできませんが、……御父の声を聞き、人生のチャレンジに堪え忍ぶために必要な強さを得られます。」

中央初等協会第一顧問 ジーン・A・スティーブンス



「皆さんは……この時代に地上にやってきました。……主は御自分の輝かしい再臨にこの世を備える業を始めておられます。現代は大いなる機会と重要な責任が待ち受けている時代です。皆さんの時代です。」

十二使徒定員会 ニール・L・アンダーセン長老



「皆さんは……独りではありません。……交わした聖約を守るなら、聖霊が導き、守ってくださいます。皆さんは天から遣わされた天使の軍勢に取り囲まれるでしょう。」

中央若い女性会長 イレイン・S・ダルトン

教会のニュース

教会, 現代の開拓者の歴史を探求する

教会機関誌
ヒカリ・ロフトス

教 会員が開拓者のことを思い浮かべるとき、たいていは19世紀に船や徒歩で合衆国西部に向かって旅をした人々のことを想像する。

自分たちを現代の辺境にいる開拓者であると理解している人はあまりいないかもしれない。

教会歴史部は現代の開拓者の歴史探求を進めている。歴史部ではあらゆる個人の歴史記録の提出を歓迎しているが、特に新しい神殿が建設された地域や神殿が建設中の地域に住んでいる人々の改宗の歴史、開設されたばかりの伝道部で働いた宣教師の歴史、および末日聖徒がそれほど住んでいない所で福音を実践している人々の歴史に関心を寄せている。

「個人の歴史は、同じ経験をした人や同じ境遇の人、あるいは同じ時代に生きた人にとっては助け

になるものです」教会歴史部資料収集マネージャーのブラッド・ウェストウッド兄弟は語る。

個人の歴史は生涯にわたるものもあれば、伝道の思い出、個人的な子育ての経験、人生の節目に起きた独特の話など断片的なものもある、とウェストウッド兄弟は語る。

「わたしたちは、神のすべての子供たちは主の目に等しい存在だと信じています。だれもがこの世で試練に遭い、それが重要な経験談となります。わたしたちはそれらの記録が証を築くうえで助けになっていることを知っています。」

今から100年後、自分の家族歴史を持っていないかもしれない人が、あなたの歴史を読んで、「改宗者ってこういう経験をするんですね」と言うかもしれないとウェストウッド兄弟は語る。

人々が親戚やほかの開拓者に関して、遭遇した



ジョセフ・ミレットの生涯に関する短編映像(英語版を news.lds.org で視聴可能)は、信仰を鼓舞する物語を今日のわたしたちに伝えているが、そもそもそれが可能となったのは個人の歴史記録が保管されていたからである。

苦難、学んだ教訓や得た知恵などを知ると、それは自分たちの生活の勧告となり助けとなる。

歴史が図書館に提出されると、分類されて訪問者が閲覧できるようになる。原稿あるいは製本されたものは長く保存できるように教会歴史図書館の室温調整された保管庫に収められる。

ウェストウッド兄弟は教会歴史図書館に個人の歴史を送ろうとしている人々に次のような助言をしている。

公開できる内容を記す。 日記や手記はすばらしい歴史資料となるが、日常の出来事や個人の思いは必ずしも公開すべきものばかりではない。これらの記述はだれかのプライバシーを侵害する可能性もある。もしその歴史記録がだれかの名誉を傷つけるような情報を含んでいる場合には、受け付けたとしても公開することはない。

部分に分けて記す。 幼少期の記憶から現在に至るまでのあらゆることを書こうとすると、途中でくじけてしまうことがよくある。一つの物語から始める。例えば、伝道について書き始める。それが完成したら、人生の別の部分を記す。

資料を用いる。 もし手紙があれば、それを写すか本に掲載する。写真があれば、それも同封する。ある特定の書籍から情報を使用した場合には、参照箇所を記す。スクラップブックが個人の歴史に活用されることもある。しかしスクラップブックを作る人は伝えたい内容を含んでいなかったり、写真で示されている出来事について記していなかったりする人も多いとウェストウッド兄弟は語る。少し時間をかけてスクラップブックの写真の説明を記すとよい。

だれかに相談したり取材したりする。 「個人の歴史を自分たちの視点からしか見ていないことがよくありますが、客観性が加われば加わるほど、その歴史に重みが増してきます」とウェストウッド兄弟は語る。だれかに取材をすると新たな視点が加わり、歴史の書き方が改善される。

霊的経験、重要な出来事、^{かき}鍵となる要因、人々、出来事について記す。 「上手に語られる話は好まれますが、2歳になるまでの話に60ページも費やすべきではありません。恐らくそのようなことはしないとは思いますが、そのようなものは人々も読む気にはなれません。」起承転結を用いて経験を記すようにウェストウッド兄弟は語る。

夢中になっていることについて記す。 時間の経過を追って歴史を記すよりは、テーマを持って歴史

を記すか、興味のある事柄について記すべきだとウェストウッド兄弟は勧めている。

最も重要なことは、その記録によって家族が強められることなので、会員はまず家族の中で個人や家族の歴史を見てもらったうえで、それを教会に提出すべきである。

良いときもつらいときも、正直に個人の歴史を記録する人は、人生の中に主の御手を見だし、家族をはじめ教会員を

強める遺産や記憶を残すとウェストウッド兄弟は確信している。

あなたが現代の開拓者で、経験を分かち合いたいと望むなら、教会歴史部にあなたの歴史を提出してください。

あなたの歴史記録は以下のあて先に持参するか郵送してください。Church History Library, 15 East North Temple Street, Salt Lake City, UT 84150-1600, USA, Attention: Acquisitions

持参する場合は、月曜日から金曜日の午前9時から午後5時まで受け付けます。

電子メール ChurchHistoryAcquisitions@ldschurch.org に歴史記録を送付したり、教会歴史記録収集課コールセンター(1-801-240-5696)に連絡したりすることも可能です。■



©2006 David Stoker

**個人の歴史は
人々の信仰を
強めることができる。**

全世界に向けて

ペリー長老、ヤングアダルトは最も偉大な世代にならないと語る

2011年3月6日、教会教育システムによるヤングアダルトのためのファイヤサイドが放映され、その中で十二使徒定員会のL・トム・ペリー長老は「この教会のヤングアダルトの間にはとばしる霊の力を目にしてきました。わたしは皆さんに力があることを知っています」と語った。

長老はヤングアダルトが自分の能力を豊かに伸ばし、人々が再びキリストへの信仰を得られるのに役立つ4つのことを教えた。それは毎日の祈り、毎日の聖典学習、神殿へのふさわしさ、そして日々の奉仕である。

「皆さんはこの時のために主が取っておかれた世代です。……『最も大いなる世代』となるようお勧めします」とペリー長老は語った。

この説教は、複数の言語で読む、聞く、または見ることができます。institute.lds.orgにアクセスし、「CES Firesides」をクリックし希望の言語を選択してください。

福音は喜びをもたらす—— クック長老、アジアの聖徒に語る

2011年2月12日から2月20日まで、十二使徒定員会のクエンティン・L・クック長老は韓国と日本の聖徒を訪れた。

長老は韓国ソウルの教会員に、持っていないものに目を向けるのではなく、持っているものに感謝するようにと教えた。また福音はわたしたちすべての者が求める喜び、幸福、平安をもたらしてくれるものだということを改めて思い起こさせた。

さらにクック長老は複数の新聞社の共同記者会見に臨み、記者たちからの質問に答えた。

クック長老は韓国大田伝道部の宣教師に時間をかけて教え、勧告し、質問に答え、同伝道部の神権



韓国を訪問したクエンティン・L・クック長老は、末日聖徒に、福音はわたしたちが求める喜びと平安をもたらすことを思い起こさせた。news.lds.org でさらに写真を見ることができる。

指導者会に参加した。

また韓国清州^{チョンジュ}ステーキで開かれたステーキ大会に参加して訪問日程を終えた。使徒による同ステーキへの訪問は今回が初めてである。

さらにクック長老は日本の神戸での神権指導者大会、岡山のステーキ大会に参加し、東京では明治神宮の代表者と会談し、その後ベトナムを訪れた。

律法があるおかげで 人は自分の可能性に手が届く—— クリストファーソン長老が語る

十二使徒定員会のD・トッド・クリストファーソン長老は2月4日に開催されたJ・ルーベン・クラーク弁護士会の会員に向けた話の中で、「神は子供であるわたしたちに人間同士の関係と人間の行為を律するために、法律と法体系を定める機会と責任をゆだねられました」と語った。長老はこの世と次の世で個人が自らの能力を伸ばそうとするときに律法が果たす役割について話した。

「イエス・キリストから離れては究極の正義に到達することはできない」こと、そして「ほかの人の可能性を開花させるように助けるために、わたしたち

教会の話題

にできる最大の善は、その人を救い主のもとに導くことである」ということを、クリストファーソン長老は聴衆に思い出させた。救い主には誤りを正す力があること、「わたしたちの足りないところを補い、わたしたちを律法の前で義とし、その結果わたしたちを主とともに永遠の命の共同の相続人にしてください」力が救い主にはあることをクリストファーソン長老は話した。そしてキリストが生きておられることを証して話を終えた。

またこのファイヤサイドの中で、クリストファーソン長老は、法曹界における功績を認められ、J・ルーベン・クラーク弁護士会栄誉賞が与えられた。

ベック姉妹、神の計画の中で 扶助協会が果たす役割を強調する

2011年2月26日、中央扶助協会会長のジュリー・B・ベック姉妹はBYU アイダホ校のキャンパスで、およそ1万人の扶助協会の姉妹と指導者たちに会い、彼女たちの信仰を強め、扶助協会と救いの計画において自分の役割を果たすよう励ました。

一般大会と指導者訓練集会で、ベック姉妹はアメリカ合衆国アイダホ州南東部にある40以上のステークからやって来た姉妹や神権指導者の質問に答えた。

ベック姉妹は扶助協会の仕事にかかわる人は、主の目的を頭と心に留め、この地上での主の目的を果たすとき、祝福され、強められ、^{きよ}聖められ、^{いや}癒されると証した。

「わたしたちには主が娘たちを祝福するために作られた組織があります。これが主の業である以上、主は皆さんが何者であるかを御存じです。主は皆さんを強め、大いなる者にしてくださいませ」とベック姉妹は語った。

news.lds.orgでベック姉妹の教えをさらに読み、関連するビデオを見ることができます(ビデオも文書も英語のみ)。■

ミシンが自立を促す

2010年、教会はフィジーの社会福祉省に50台のミシンを寄贈し、さらにもう50台のミシンを寄贈することになっている。これによりフィジーの田舎で暮らす女性たちは自立と雇用の機会を増やしている。

教会員による人道支援基金への寄付により、教会はミシン寄贈のようなプロジェクトで世界中の必要にこたえることができる。教会を代表する人々は村や政府の指導者と密接に手を携えて、地元の状態を把握しその社会で暮らす人々の望みを尊重している。

「わたしたちはキリストに従う者として、ミシン寄贈のような企画を履行するのです。わたしたちは信仰によって世の中で善いことをしようと努めるのです」と地域七十人のタニエラ・B・ワコロ長老は地元紙 *Fiji Times* (『フィジー・タイムズ』) のインタビューに答えて言った。

日本の会員が受賞

2010年11月9日、日本に壊滅的な被害をもたらした地震の4か月前、日本藤沢ステークの会員である杉山洋二兄弟が自国への功績をたたえられ、^{ずいほうちゅうじゅ}瑞宝中綬章を受賞した。

杉山兄弟は長年にわたって外務省の一員として条約の交渉に深くかわり、日本の外交官として働いてきた。

杉山兄弟は主がわたしたちすべての者に自分自身の領域で善をなす機会を与えてくださるということを理解している。「主は時々自分の必要を見いだせるように困難なことをお与えになります。良い解決策を見いだす必要性と機会がなければ、人は進歩することもこの世に幸福をもたらすこともありません」と彼は語る。

末日聖徒の慈善事業が浄水を供給

地上に住むおよそ10億人が清潔な水を得られていない。そのため頻繁にコレラや下痢、チフスなどの飲料水媒介の病気を発症する。しかし2002年以来、教会は5,000以上の地域で暮らす700万人が清潔な水を得られるように支援してきた。ビデオ「幸福をもたらす水」(*Water Is Happiness*)は末日聖徒イエス・キリスト教会の慈善事業がシエラ・レオネの村に浄水をもたらした話で、news.lds.orgで視聴可能(英語)である。■



世界の出来事

『生ける預言者の教え』最新版発行

教会教育システムは全ページカラー版手引きとしては初となる『生ける預言者の教え』を出版した。新しい手引きは現代の預言者の重要性を強調し、大管長会や十二使徒定員会の役割を説明し、連綿と継承される大管長会について解説している。

この手引きは store.lds.org または合衆国各地にある配送センターで購入可能である。今のところ英語とスペイン語の手引きは購入可能であるが、ほかの言語への翻訳も現在進められている。

教会、「異宗派間の贈り物」を主催する

2011年2月20日日曜日、テンプルスクウェアにあるタバナクルで様々な宗教的伝統を持つ異宗派の音楽、ダンス、聖典や祈りが披露された。



異宗派間の音楽の贈り物は
2002年のオリンピック大会に端を發し、
毎年2月に行われている。

日曜日のコンサートに先立って、地元のシナゴグ、礼拝堂、ヒンズー教寺院、ほかの施設で多くの催しが行われ、ユタ州の宗教界の伝統が公開された。■

読者からの便り

救い主に基を据えた家庭と結婚

夫とわたしは家庭の夕べに『リアホナ』を活用します。おかげでわたしたちは高められています。大管長会のメッセージを読みながら、日々の難題に役立つ靈感された言葉を探しています。このようにして、救い主イエス・キリストに基を据えた家庭と結婚の土台を強めています。

バトリシア・オリベラ・デ・ソーザ・バレーナ・リアル
(ブラジル)

悲しみの中の幸福

『リアホナ』のメッセージにはほんとうに力づけられます。母が亡くなってからは特に励まされました。悲しみのまっただ中でも、自分がこの偉大な業の一部であり、人生の中で福音のすべての祝福を享受できることに幸せを感じています。終わりまで堪え忍ぶならば、もう一度母と一緒になれることをわたしは知っています。

ディナベル・セラヤ (ホンジュラス)

ご意見、ご感想を liahona@ldschurch.org にお送りください。掲載されるお手紙は、誌面の都合上、あるいは明瞭な表現にするために編集されることがあります。

家庭の夕べのためのアイデア

今月号には、家庭の夕べで活用できる記事や活動が載っています。以下に幾つか例を挙げます。

「行動を開始する」42ページ——レッスンの一部として、「サイモンが言いました」というゲームをして、だれかが指示を出すまで待つことを教えます。(このゲームをするには、一人が「サイモンが言いました」と言ってから、手を挙げるなど、特定の動きをするように指示します。このように何度か続けて指示を出しますが、そのうち初めに「サイモンが言いました」と言わずにある行動をするように指示を出します。指示の例：「サイモンが言いました——手を上げなさい。サイモンが言いました——手をたたきなさい。足踏みしなさい。）」あなたが自発的に行動していたときに導きを受けたことについて証してください。

「答えは8節にありました」50ページ——一緒に記事を読み、それからヤコブの手紙1:8を読みまします。^{ふたごころ}二心とはどういうことか話し合います。さらにマタイ6:24やヨシュア24:15も読んでよいでしょう。この記事は選択と望みの関係について何を教えてくださいますか。また、わたしたちの天の御父について何を教えてくださいますか。アンジェリカは疑問に対する答えを見つけるために何をしましたか。聖典学習と祈りの大切さを証してもよいでしょう。

「めし」68ページ——この物語を話してください。家族の一員が持つ才能は奉仕や教会の召しを果たすときにどのように人々の役に立つのか話し合うのもよいでしょう。才能や技術を習得あるいは改善する決意をしてください。■



今年はずだの 雑草にすぎないから—— 抜いてしまいなさい

モント・ポールセン

わたしは、アメリカのユタ州にあるリーハイという町で育ちました。我が家では、トウモロコシとジャガイモを年ごとに輪作する形で家庭菜園をしていました。ある日、ジャガイモのうねの草取りをしていた父は、わたしにトウモロコシのうねの草取りをするようにと言いました。15センチほどに伸びたトウモロコシの、うねの草取りをしていると、1本の立派なジャガイモの株を見つけました。それは、父が草取りをしていたうねに育ったどの株にも増して見事に生長していました。そこで、「お父さん、これどうすればいいかな？」と父に尋ねました。

すると父はほとんど顔を上げることもなく、「抜いてしまいなさい」と言うのです。

その立派に育った株に父は気づいていないのではと思ひ込んだわたしは、父にこう言いました。「でもお父さん、これは雑草じゃなくて立派なジャガイモだよ。」すると父は目もくれずに、「今年はいいんだ。今年はずだの雑草にすぎないから抜いてしまいなさい」と言うので、わたしは父の言葉に従うことにしました。

それ以来、わたしは父のこの意味深長な言葉について深く考える機会が度々ありました。そしてあることに気づいたのです。それは、従順とは単に正しい選択をするだけでは不十分で、時宜じきぎにかなって正しい選択をする必要があるということです。天の御父がこの世でわたしにしてほし



天の御父が
この世でわたしに
してほしいと
望んでおられる
あらゆることに
思いを
はせてみた場合、
それぞれ最も
ふさわしい時期に
行くことが、
行いそのものと
同じくらい
大切なのではないか
と思うのです。

いと望んでおられるあらゆることに思いをはせてみた場合、それぞれ最もふさわしい時期に行くことが、行いそのものと同じくらい大切なのではないかと思うのです。例えば、伝道に出る、デートをする、結婚、子供をもうける、教育を受ける、社会人として働き始めるといったことはすべて正しい選択です。しかし、これらを誤った順番で行うと、しばしば破滅を招くことがあります。

ベニヤミン王は、「すべて、賢明に秩序正しく行うようにしなさい」と説いています（モーサヤ4：27）。十二使徒定員会のニール・A・マックスエル長老（1926 - 2004年）は次のように教えています。「信仰は神が定められた時に対する信頼を含みます。なぜなら主は『すべてのことは時節にかなって起こる』と述べておられるからです（教義と聖約64：32）。」¹

サタンはわたしたちをだまして、正しいことを誤った順序で行わせようとします。婚前交渉や16歳未満のデート、結婚前に子供をもうけるなどがその例です。神の崇高な戒めも、安易に妥協したり汚したりすると、季節外れには雑草として扱われる植物と同じになってしまいます。これまでにわたしは、たとえ時期はふさわしくなくても正しいことだから問題はないと正当化する誘惑に駆られたことがありました。しかしその度にわたしは、父が与えてくれた「今年はいいんだ。今年はずだの雑草にすぎないから抜いてしまいなさい」というあの大切な教訓に感謝しました。

注

1. ニール・A・マックスエル「弱り果てて意気そそうしないために」『聖徒の道』1991年7月号、91

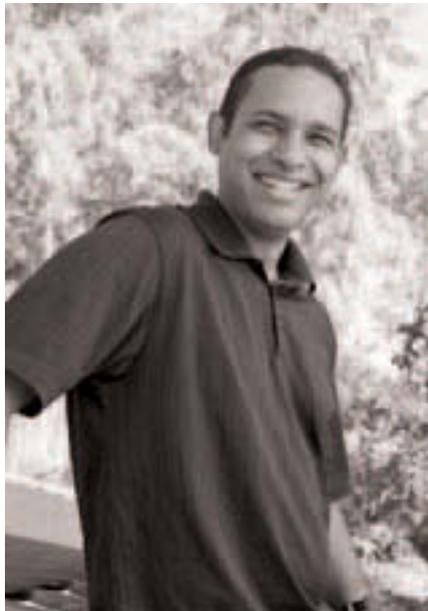


「あらゆる国の女性は平和をはぐくむ」 エマ・アレブス画

「あなたがたは心を騒がせるな、またおじけるな。」
(ヨハネ 14:27)

「これらのことをあなたがたに話したのは、わたし

にあって平安を得るためである。あなたがたは、この世ではなやみがある。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている。」(ヨハネ 16:33)



ビクトル・バスケス兄弟
(上) とルース・ロペ
ス・アンダーソン姉妹
(表紙) は、ソルトレーク・シティー
の教会歴史博物館に最近展示さ
れた「ミ・ビダ、ミ・イストリア」
において霊を鼓舞する改宗談と
証^{あかし}を分かち合ってくれたラテン
アメリカの末日聖徒 24 人のうち
の 2 人です。16 - 21 ページに
はそのような末日聖徒 10 人の
証が掲載されています。 [lds.org/
churchhistory/museum/exhibits/
mividamihistoria](http://lds.org/churchhistory/museum/exhibits/mividamihistoria) ですべての映
像をスペイン語と英語で視聴で
きます。

